

ワークショップ 「2050年、未来の町田市を考える」 報告書

2021年3月

町田市未来づくり研究所
東京都市大学



I 概要

- 1. ワークショップの目的とテーマ 4

II 第1回ワークショップ

- 1. 第1回ワークショップの目的
- 2. ワークショップ（1回目）のフレームワーク
- 3. タイムテーブル
- 4. 検討するカード
- 5. ワークショップ討議の結果

III 第2回ワークショップに向けた宿題

- 1. ワークフロー
- 2. 宿題の課題内容

IV 第2回ワークショップ

- 1. 第2回ワークショップの目的
- 2. ワークショップ（2回目）の内容
- 3. タイムテーブル
- 4. 各グループの討議結果
- 5. ワークショップの討議結果のまとめ
- 6. まとめ



I 概要



■ 目 的

- 未来シナリオに繋がる仮説の材料を得る
- 未来シナリオに各所管課の視点を加える
- 町田市職員が、シナリオプランニングの手法について学ぶ
- 町田市職員が、未来を見据えた戦略検討の視点を得る
- 町田市未来都市研究2050の研究内容を町田市職員と共有する

■ テーマ

- 未来への分岐点を探し、簡易な未来シナリオを作成する



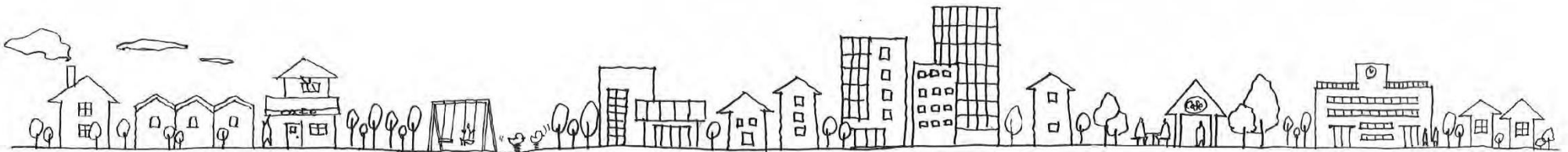
シナリオプランニングとは？

不確実性を前提とし、複数の未来を想定したシナリオを作成し、シナリオに応じた都市戦略を描き出す手法である。

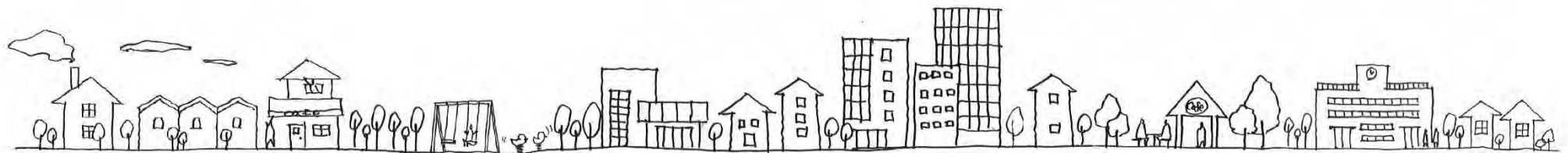
このワークショップでは、未来に向けたテクノロジーの進化を見据えた、2050 年の町田市の都市像について考えることをテーマとしている。

2050年に向けた長期にわたる「P（政治）」「E（経済）」「S（社会）」「T（技術）」のマクロトレンドを念頭に、町田市（民）において影響度が大きいと思われる「生活・社会」「経済・産業」「空間・環境」に関する事柄※をKDF（Key Driving Force：未来への分岐点）として抽出し、考察する。

※ 日本全体の将来に向けたマクロトレンドを検討するうえでは、「P（政治）」「E（経済）」「S（社会）」「T（技術）」の4つの視点は有効と思われる。しかしながら、町田市という自治体単位で検討する場合、市民生活をはじめとする様々な自治体運営（都市経営）を考慮する必要があることから、上記の4つの視点を念頭におきながら、「生活・社会」「経済・産業」「空間・環境」の側面で検討したい。つまり、“地に足が着いた”視座が求められることを想定している。



Ⅱ 第1回ワークショップ (2020年10月19日 (月) 14~17時)



1.第1回ワークショップの目的

- シナリオプランニングの考え方について、参加者が理解する。
- 未来シナリオの作成に向けて、事前配布したキーワードの中から「未来への分岐点 (= Key Driving Force)を抽出する。
- グループごとに、未来シナリオの2軸を決める。
- グループごとに、ベースシナリオの元となるキーワードを抽出する。

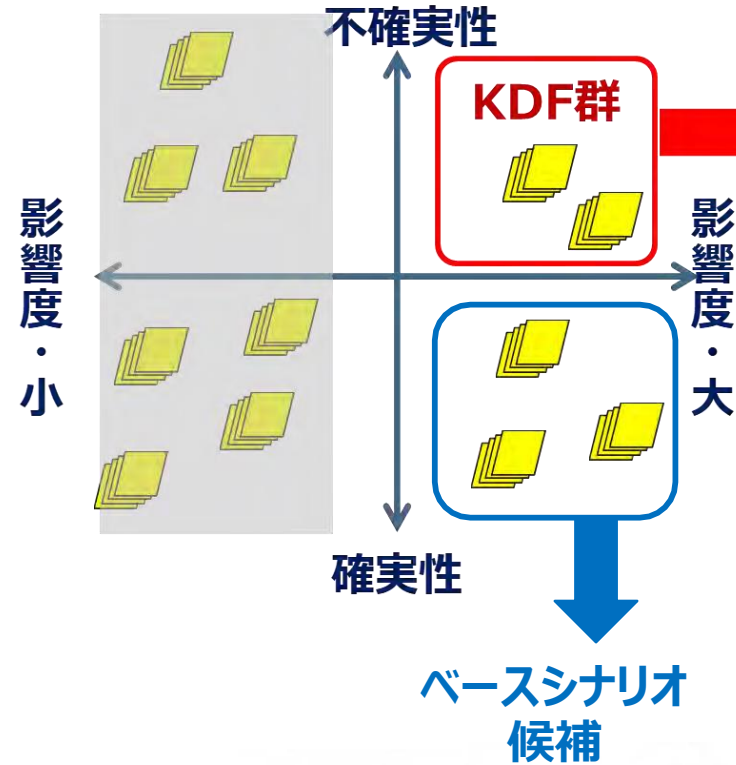
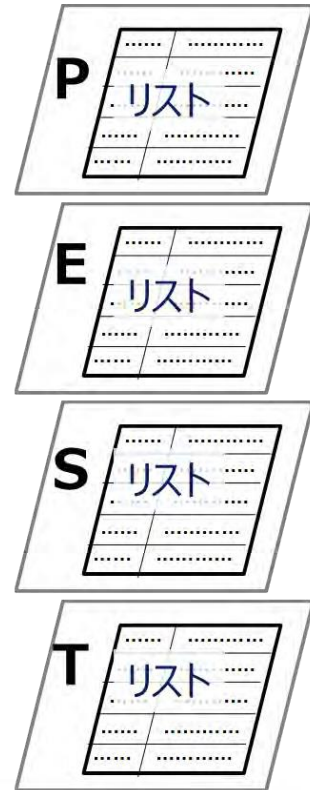


2.ワークショップ（1回目）のフレームワーク （1）討議過程

送付されたキーワード
（ Driving Force ）の
リストを読み込む（予習）

キーワード（ Driving Force ）
をKDF抽出フレームにプロットする
＝ KDF（ Key Driving Force ）の抽出

KDFの軸となる
2つの事柄を抽出

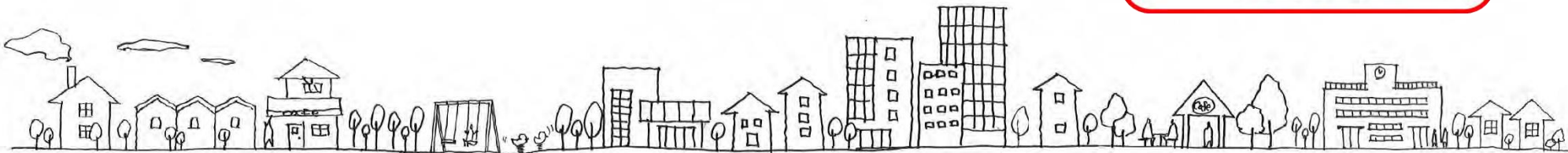


KDF群

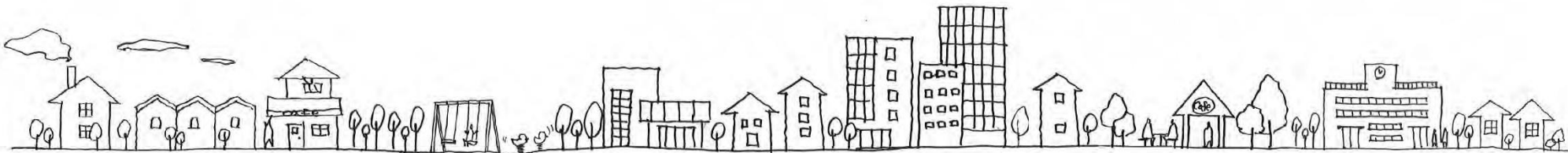
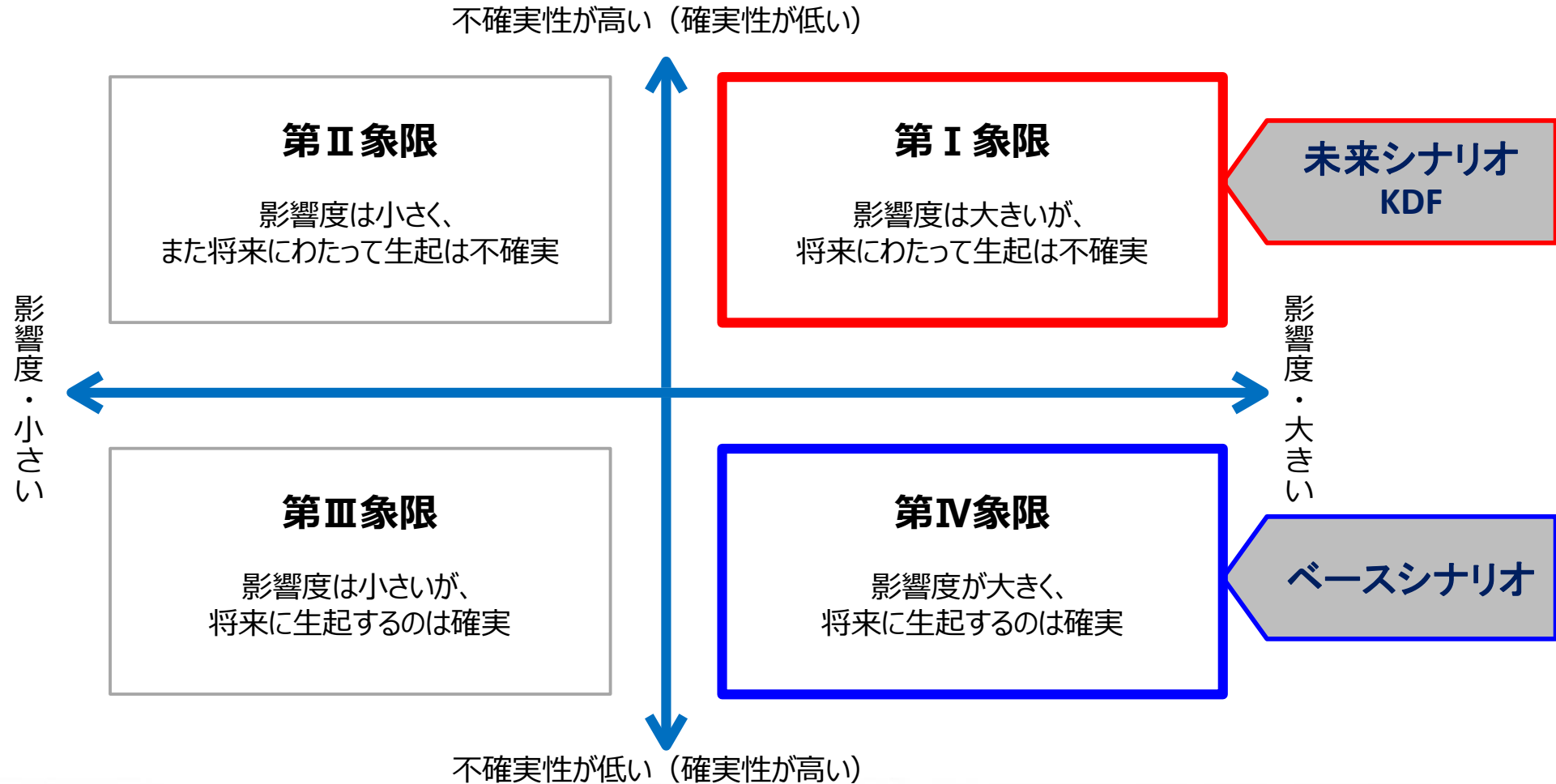
最重要KDFとなる
事柄を2つ抽出

B A

ゴール!!

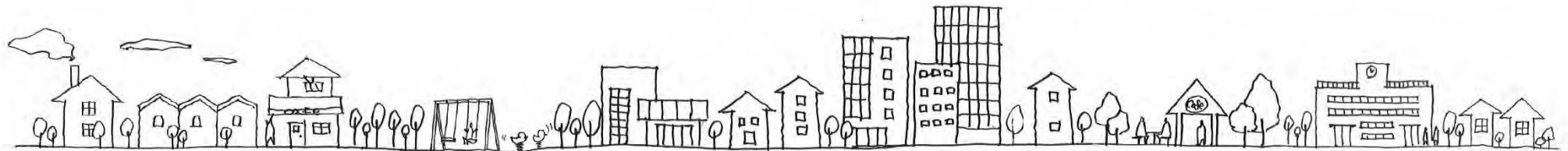


2.ワークショップ（１回目）のフレームワーク （２）アウトプットイメージ



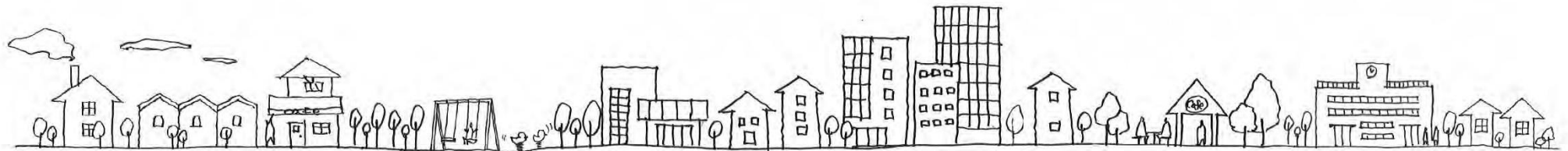
3.タイムテーブル（当初設定）

14:00～14:05（5）	挨拶（町田市未来づくり研究所 市川所長）
14:05～14:10（5）	オリエンテーション（東京都市大学）
14:10～14:35（25） （14:35～14:40 休憩）	基礎情報の説明 ブランド調査から見える町田市の特徴 公表資料から見える未来像
14:40～15:25（45） （15:25～15:30 休憩）	自己紹介 グループワーク・テーマ① 80のカードの4象限（不確実性の高低/影響度合いの大小）への振り分け
15:30～16:05（35） （16:05～16:10 休憩）	グループワーク・テーマ② 第Ⅰ象限内のカード（KDF群）から2つKDFの抽出
16:10～16:40（30）	各班グループワークの結果発表＆質疑応答
16:40～16:55（15）	総括（東京都市大学）
16:55～17:00（5）	閉会の挨拶・次回予告（東京都市大学）



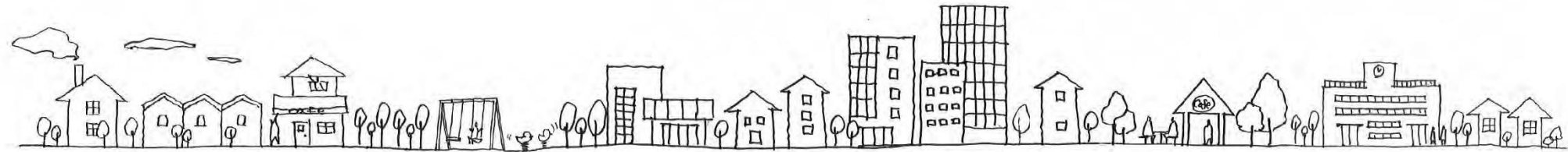
4.検討するカード（想定される未来事象）（1）P(政治)

新番号	キーワード	説明
P-1	日本経済（輸出経済）の打撃	米中覇権争いを背景に、日本の主要な輸出先である両国との関係性や、日中の局所的対立に起因する輸出締め出し。
P-2	外国人人材の確保に向けた移民の受容の促進	当初は労働集約型産業における人材不足を埋めるための外国人人材だったが、国際競争力の維持のために知的労働においても積極的に外国人人材を登用を促進するようになる。
P-3	社会保障政策の破綻	少子化による人口減少（負担者減少）、高齢化（受給者増加）の進行により、現行制度のままなら2050年までに年金、医療・福祉の各制度は破綻を迎える。
P-4	Big Brotherの浸透（個人情報管理の時代）	「Big brother is watching you＝ビッグブラザーがあなたを見守っている。」個人情報のセンシングが進み、管理される時代に。
P-5	「町田市」という行政区域がなくなる	自治体として、意思決定できる主体としての町田市がなくなる可能性がある。自分たちのことを自分たちで決められるというアイデンティティーがないと、合併につながる。
P-6	朝鮮半島不安定化と難民受け入れ	米中大国間の覇権争いを背景に、休戦状態の朝鮮半島2国間の葛藤・衝突が起こり、一部難民が日本へ。
P-7	中国との局所的衝突と経済問題の発生	尖閣諸島の領有権や何らかの政治的対立（台湾の帰属問題にかかる米中対立の余波）に端を発する局所的衝突・葛藤。これに伴う日中間の経済的閉塞（日本の経済問題の深刻化）。
P-8	社会の不安定化・不透明化が増す	資源の希少化に伴う国際不安定、災害や経済の衰退に伴う政情不安による国内不安定が増す。
P-9	世界的な食糧難の顕在化、深刻化	農業従事者の減少で海外依存度が高くなる中で、地球温暖化に伴う気候変動による世界的な食糧不作の慢性化と相まって、国内の食糧難が深刻化する（海外からの食糧調達が困難になる）。
P-10	財政逼迫	日本全体を含め、東京都市圏全体で高齢化と人口減少により、歳入は減り歳出は増える。
P-11	官民連携・PPP・ソーシャルインパクトボンドの普及	PPP（Public Private Partnershipの略。公共サービスの提供に民間が参画する手法）、ソーシャルインパクトボンド（成果連動型民間委託契約の一つ）などの新たな公共の形が普及する。
P-12	地域経済・インフラにおける官民の役割分担の進展 （＝シュタットベルケ型官民役割分担）	水道や道路の維持など、住民が文化的で人間的な生活ができる場所をつくる＝守りの部分は行政が担い、地域の経済を回す＝攻めの部分は民間に任せる、という役割分担を行うようになる。
P-13	Proactive Planningの導入（先見的な都市計画）	タクティカルアーバンイズム（小さな実験から始める都市計画）、プレスメイキング（居心地の良い空間づくり）、ファジーファンクショナルリズム（土地や建物の機能転換・複合化）などの先見的な都市計画。
P-14	議会の先進化	議会の運営方法、選挙手法にデジタル技術などを活用して先進化。
P-15	教育関連の改革が進む	格差是正、幼保一体化、無償化、9月入学の本格化（世界標準）が進む。
P-16	自治体間格差が広がる	今と同じことをやっている自治体と将来に備えうまくやっていける自治体との差が生まれる。
P-17	現状の自治体単位を超えた広域連携もしくは統合がさらに進む	“消滅都市”が顕在化する中で、従来の自治体の枠組みを超えた新たな行政の枠組み（統廃合だけではなく、広域連携など）がより強く求められる。
P-18	郊外団地・丘陵戸建の廃墟化	マクロ的に住宅の総量規制を行い、新規住宅を減らさない限り、空き家は減らない。
P-19	米中の覇権争いの激化	主に経済力や技術力、軍事力など、世界の覇権をめぐる対立・葛藤。米中の入れ替わりが予想される。
P-20	世界は多極化	2030年頃までは米中の2国間で世界覇権の争いが続くが、その後は著しい経済成長を伴ってインドや東南アジアが台頭し、世界は多極化する。日本は相対的に世界的地位が低下する）。



4.検討するカード（想定される未来事象）（2）E(経済)

新番号	キーワード	説明
E-1	マイナス成長一大恐慌の前兆	人口減も受け、経済は低成長からマイナス成長へと突入する可能性がある。
E-2	マーケットキャップ志向への転換	先進国の人口減少下にあつて、人口増を前提とする経済力指標のGDPに代わって時価総額が指標となる。
E-3	在宅勤務などで、居住地周辺で働くことが一般化している	働き方改革の浸透で、在宅勤務やサテライトオフィスでのリモートワーク、居住地周辺での副業・兼業による職住近接が当たり前になっている。
E-4	市場経済から統制経済へ	2050年には市場経済ではなく、デジタルサービスのプラットフォームによる統制経済となる。
E-5	私有（固有）→共有、建物（所有）発想から資源（使用）発想へ	空間的なリソースを、所有の対象としてではなく、利用できる資源と捉えることで、都市空間の様々なタイプのサービスが重なり合いながら提供される。
E-6	ローカル事業の活性	貧富の差をなくすため、自宅を含めた地域で働く人を支援する策が活発に。
E-7	デジタル経済圏の拡大、一般化 ＝法定通貨・管理通貨を凌駕する暗号通貨	ブロックチェーン技術により、実在する資産（モノ）がデジタルアセット（資産）化され、暗号通貨（仮想通貨）による経済圏が拡大する。結果として、法定通貨・管理通貨を凌駕する。
E-8	トークンエコノミーという地域通貨の浸透	トークンという代替貨幣（仮想通貨）により形成される経済圏＝トークンを発行した主体（個人、企業、地域等）の範囲の中でしか適応できない。
E-9	デジタルファブリケーションによるモノづくりや、働き方の変容	「モノを作って売る」ではなく、「使ってもらえるものを使ってもらえる量に合わせて作る」というように、人間のライフスタイルに合わせたモノづくり。このようなモノづくりは、労働法制度改革等による場所や時間に依存しない働き方の進展と相まって、兼業・副業、起業という新たな働き方が誘発され、新しい経済を創出する。
E-10	経済競争激化と貧富格差の拡大	研究教育機関の国際化、インターネットビジネスの拡大により、国際的な経済競争が激化し、貧富の格差が拡大。
E-11	経済・所得格差が複雑化	経済のデジタル化はさらに進み、Gigeconomyによる雇用不安定が激しく進む中、経済格差が今までより複雑化。
E-12	クリエイティブクラスの増加	Proactive（能動的）、積極的、組織に貢献できる、組織に依存するのではなく、組織の枠を超えて活動をし、利益創出できる人材が増加する。
E-13	カスタマイズ化された教育の一般化	リモート型のリカレント教育が一般化し、学びたい時に好きな場所で学ぶことができる。
E-14	外国人・インバウンドの流入への増大	国際空港機能の拡充、かつての発展途上国の経済成長によるさまざまな国からのインバウンドが増える。
E-15	スーパーメカリージョンの形成	東京、中京、近畿の陸上での一体化が生み出す巨大な経済圏と人の動き。その中央リニアの駅が隣接市にできることによる将来の経済効果への期待（ただし、コアとなる産業がないと、クローズな単なる乗換え駅化する）。
E-16	リニアモーターカー新駅	リニア新幹線の新駅ができることにより、広域移動の自由度が高まり、新たな経済圏が形成する。
E-17	シェアリングエコノミーの進展	持たない社会が進展し、他人とのシェアや、自分が造ったり売ったりする社会へ。
E-18	ギグエコノミーの拡大	プラットフォーム経済が進み、正規雇用に代わり、インターネットを通じて単発の仕事を受ける日雇いの労働が増える。
E-19	デジタル経済圏の拡大	生活領域で国の位置づけが薄まり、複数の国を横断するコミュニティが増える。
E-20	仮想通貨（暗号通貨）の世界的な浸透	国家による法定通貨・管理通貨ではなく、電子データ（デジタルデータ）のみでやりとりされる暗号資産・暗号通貨。



4.検討するカード（想定される未来事象）（3）S(社会)

新番号	キーワード	説明
S-1	フィジカル（リアル）とバーチャルが両立した小規模都市の成立	ICTを活用することで、フィジカルとバーチャルを組み合わせた生活をするのであれば、大きなサイズでなくても都市として完結する（郊外や地方都市は小規模でコンプリート⇔メガシティ）。
S-2	首都大震災の発生や激甚自然災害の頻発化	2050年までの間に、70%の確率で首都圏大震災もしくは南海大震災が想定されている。気候変動は続き、大雨や夏の猛暑など、異常気象が常態化する。
S-3	新たな感染症拡大による行動規制と社会変容（例.Withコロナ）	SARS、MERS、Covid-19以外にも今後も様々な感染症が発生し、拡散する。 感染症対策としての外出自粛は、働き方・オフィスのあり方、教育現場、住宅のあり方、医療のあり方などを変化させる。
S-4	スーパーシティでは末端の個人が畜産化	スーパーシティとは住民の情報をデジタルサービス企業に売り渡すことであり、差配する側は儲かり、個々にタグをつけられた末端は、情報を吸い取られるばかりで奴隷・畜産化する。
S-5	リアルベース派から、デジタルネイティブ派が主流へ	世代交代とともに、リアルな世界（固定インフラ上の経済活動）に軸足を置きながら生活の一部でデジタルを利用する（リアルベース派）から、デジタル空間（デジタル空間での経済活動）に軸足を置きながら補足的にリアルを利用する（デジタルネイティブ派）が主流となる。＝ガンダムにおける地球派／宇宙コロニー派、Covid19における都市派／開疎派のようなもの。
S-6	脱東京依存・開疎化	感染症予防の「3密」回避と、在宅勤務等の新しい働き方の導入で東京都心に依存する必要性がなくなる。
S-7	多地域居住の浸透	一部の超リッチ層だけではなく、“持たない暮らし”の価値観を持つ人が、自由に“住みまわる”生活を展開する。
S-8	都心アクセス優位性低下	Withコロナ以降、働き方改革の浸透もあって、人々の居住地選択は必ずしも都心や勤務地へのアクセスが最優先されるのではなく、自身の生活の質がより重視される。
S-9	アクティビティスペースのセルフデザイン（多様化とパーソナル化）	組織的な制約が低下することにより、どこでどういう活動をするか個人の選択肢が広がる。自分自身で色々組み立てていく可能性が高まる。
S-10	人口減少による消滅都市の増加	少子化を背景に、大都市およびその近郊でも今後人口が減少し、それが加速していく（消滅都市の増加）。
S-11	個人情報への捕捉が容認される	個人の情報は絶えず捕捉されることは、情報管理・運用の倫理観や、自由や秩序の問題につながっていくが、良い事例が積み重なると情報捕捉が容認される。
S-12	マイクロツーリズムの進展	インバウンドや団体観光客に頼らない、地域に根差した小規模・個人型の観光。
S-13	時間や手間の効率化を重視する価値観のさらなる浸透	生産性（インプット＝ヒト、カネ、時間に対するアウトプット＝価値）や、無駄をなくす合理化と同義または類似。また、無駄なく、シンプルといった“持たない”に通底する生活価値観が広く浸透。
S-14	デジタル・ファブリケーションによるプロシューマー（生産者と消費者が一体）の一般化	テクノロジーの進展により生産手段が消費者にも可能なものになる。つまり、プロシューマー（消費者でありながら生産者でもある人々＝ファブ化）が一般化する。同時に、同じカテゴリーに属するプロシューマーが、地域を超えたコミュニティを形成する。
S-15	マストランジットの進化＝MaaS	公共交通サービスは、高齢化や将来の需要減による維持困難の問題を抱えるものの、MaaSの仕組みの導入により、市内（域内）の移動の便利さは増している。
S-16	老朽団地を中心に外国人のコロニー化	低賃金の外国労働者が、老朽する団地に集住することで、周辺の日本人との軋轢、葛藤が顕在化し、深刻な社会問題化する。
S-17	生活困窮者の増加、社会不安拡大	医療費の個人負担の高騰や、生活保護をはじめとする社会福祉の打ち切り、もしくは給付が大幅に削減され、生活困窮者が（都市部を中心に）大幅に増える。これにより餓死や犯罪が多発し、社会不安が増大する。
S-18	旧住民と新住民の分断が加速する	郊外におけるまちづくり課題の1つは、旧住民と新住民が分断していること、コミュニケーションの問題がある。
S-19	大都市郊外における急速な高齢化	70年代のニュータウンブームの中、そこに移住した団塊の世代が一斉に後期高齢者になることで、特に郊外都市では高齢化が加速する。
S-20	社会の格差・分断増	オンラインワークが可能な層とそうではないエッセンシャルワーカーとの社会分断が進むことは心配事項である。



4.検討するカード（想定される未来事象）（4）T(技術)

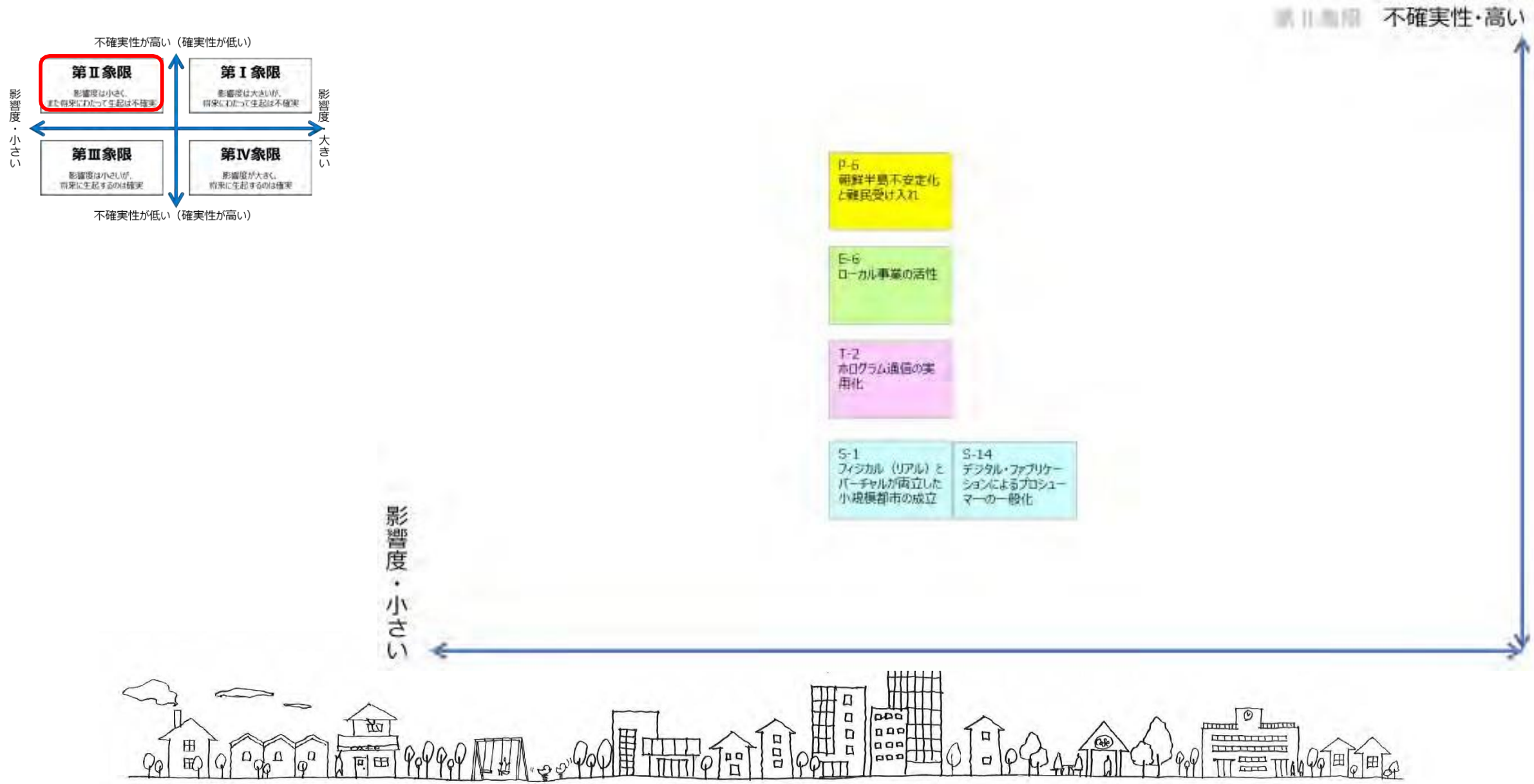
新番号	キーワード	説明
T-1	デジタル生活における住宅空間の可変性とコネクテッド化の進展	家族が使える空間が一定広く、可変性が高いということはすごく重要。＝今後は大型のデバイスの住まいへの搬入、IoT環境の整備。
T-2	ホログラム通信の実用化	技術革新を背景に、スターウォーズに出てくるホログラム通信（3次元映像を用いた通信）が実用化される。
T-3	Hyperconnectivity＝人と機械の結合	人と人、人と機械、機械と機械が相互につながった状態＝人の身体が機械に接続することができ、モノとAIが時空間を超えて繋がり、連動（映画マトリックスの実現）。
T-4	human augmentation 人間の機能拡張	AIや補助装置等のテクノロジーを用いて、人間の能力・機能を高める（人の自然な姿のままでいられるデバイス開発）。
T-5	脳科学の進展・実用化	脳科学の進展により、脳機能の非侵襲計測が可能となり、障がい者の能力を活かした社会参加が可能。
T-6	スマート農業の一般化	ロボット技術やICTを活用し、省力化・精密化しながら高品質の農産物を生産する仕組み。
T-7	ドローンの普及による空飛ぶ宅配トラックの登場	交通不便地域における住民に対しても、無人で低コストの安定した宅配サービスを提供できる。ドライバー不足や再配達の手間の問題の解消が期待できる。
T-8	デジタルデバイドの顕在化と深刻化	主に経済的背景による機器の充実度、それに伴うテラシー、スキルを背景とする、デジタルベースの社会システムにおける乗り遅れ、格差。
T-9	サーキュラーエコノミーの定着化によるモノづくりの変容	廃棄コスト（ゴミ問題）と環境影響も踏まえた、製造～販売～使用～廃棄・リサイクルを考慮したモノづくりの在り方の浸透。
T-10	スマートシティ化の実現	国土交通省が提唱する、都市の諸課題に対してICT（IoT/AI）等の新技術を活用し、様々なデータにもとづく最適なマネジメントにより、継続的な発展を目的とする新しい都市像。
T-11	労務的業務の多くで、AI化・自動化・省人化（人手不足・人力軽減）が進む	IoT&AI&ロボットの導入により、事務系の単純労働または定型業務、介護サービスの自動化・機械化され、省人化が進む（ただし、製造・製作や保守メンテにおける最終品質では人手が優位）。
T-12	E-governance+AI	政治参加の電子化が急激に進むとともに行政のすべてが電子化される。現在の役人の仕事はAIと併合。
T-13	地球環境を考慮した持続可能なエネルギーの創出	省エネルギー、畜エネルギーの進化、化石燃料や原子力に代わる新エネルギー創出など、SDGsを念頭においた地球環境にやさしいエネルギーの登場、浸透・発展。
T-14	遠隔医療・個別化医療	5G・6Gなどの通信技術の飛躍的進化、人工知能を活用した高度な診断の支援システムの実用化による、遠隔医療や個別化医療の一般化。同時に、地域による医療品質の格差の解消。
T-15	都市におけるデジタルツイン（リアルとバーチャル）の実現	デジタルツイン＝物理世界（現実世界）に実在しているものを、デジタル空間でリアルに表現した都市。都市全体をリアルタイムに3D化できるようになる。
T-16	取引におけるブロックチェーンの浸透	分散型ネットワークを構成する、暗号化技術を取り入れた複数のコンピューターが、一定期間の取引情報（ブロック）を同期して記録するとともに、相互に検証しながら（チェーン）記録・蓄積する仕組み。複数のコンピューターの検証により、記録の改ざんや不正の防止が期待できる。
T-17	自動運転・隊列走行の実現	自動運転＊電気自動車、コネクティッドカー、トラック隊列走行、スマート物流倉庫といった技術が一般化する。
T-18	電気自動車の普及拡大	排気ガスのない電気自動車の普及により、住宅建築の発想が転換、両者の親和性が高まるデザインとなる。
T-19	プラットフォームの伸長	マルチステイクホルダーに配慮した（個人情報活用等）プラットフォームが伸びる。
T-20	デジタルエリアマネジメントの推進	インフラデジタルデータを防犯・防災に活用すること、効率的にセーフティネットを張ること、等によるデジタルエリマネを進める。



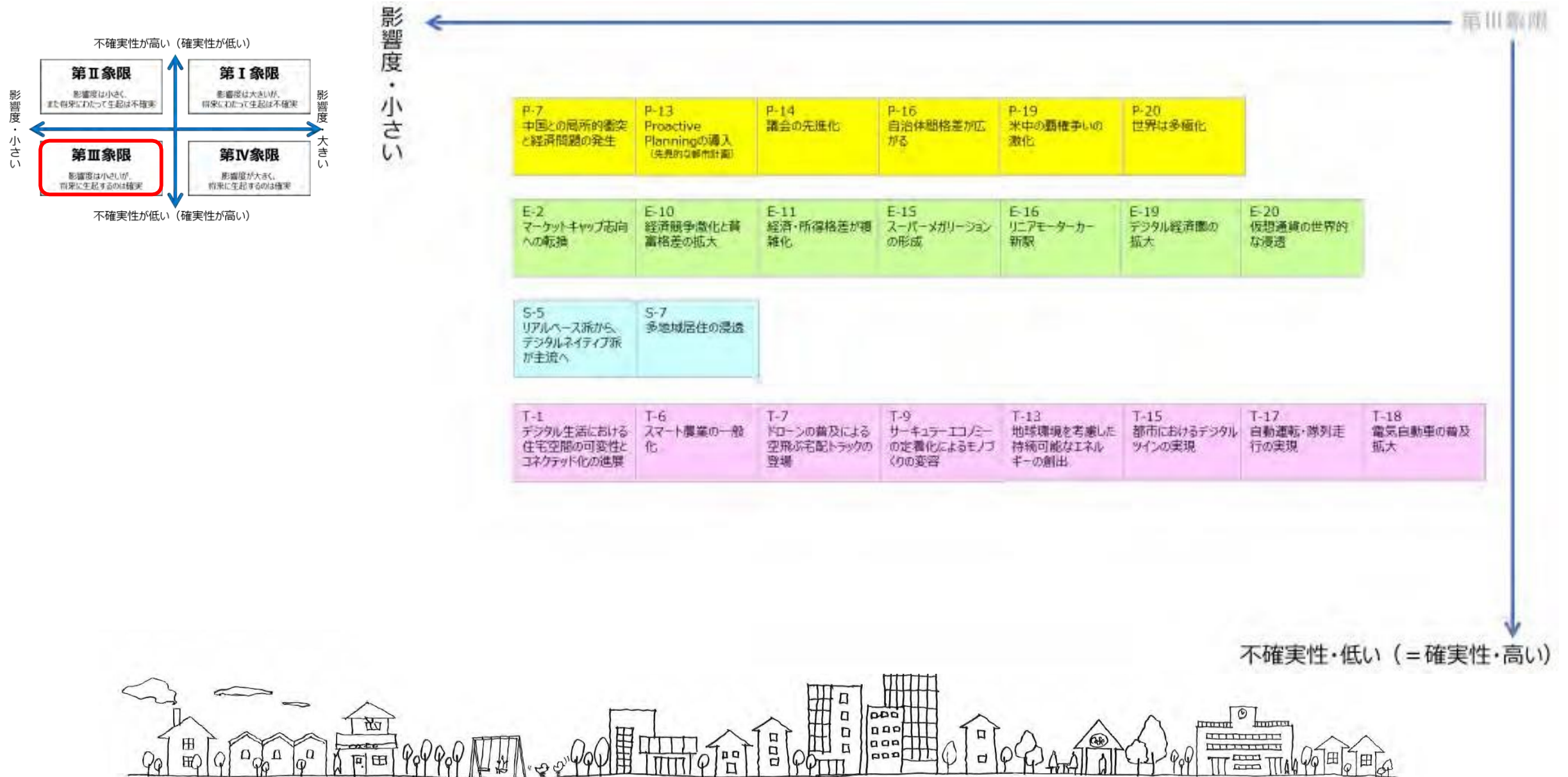
5.ワークショップ討議の結果 (1) Aグループ ①第Ⅰ象限



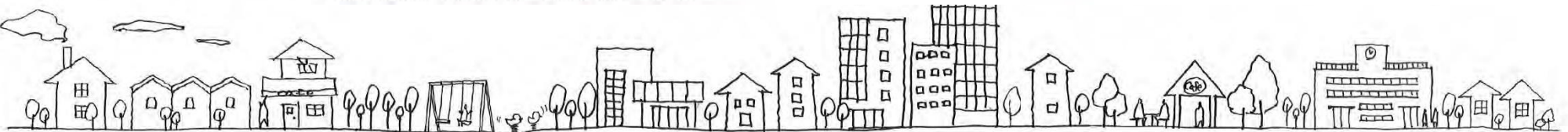
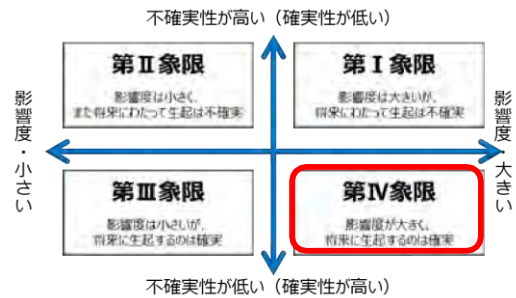
5.ワークショップ°討議の結果 (1) Aグループ ②第Ⅱ象限



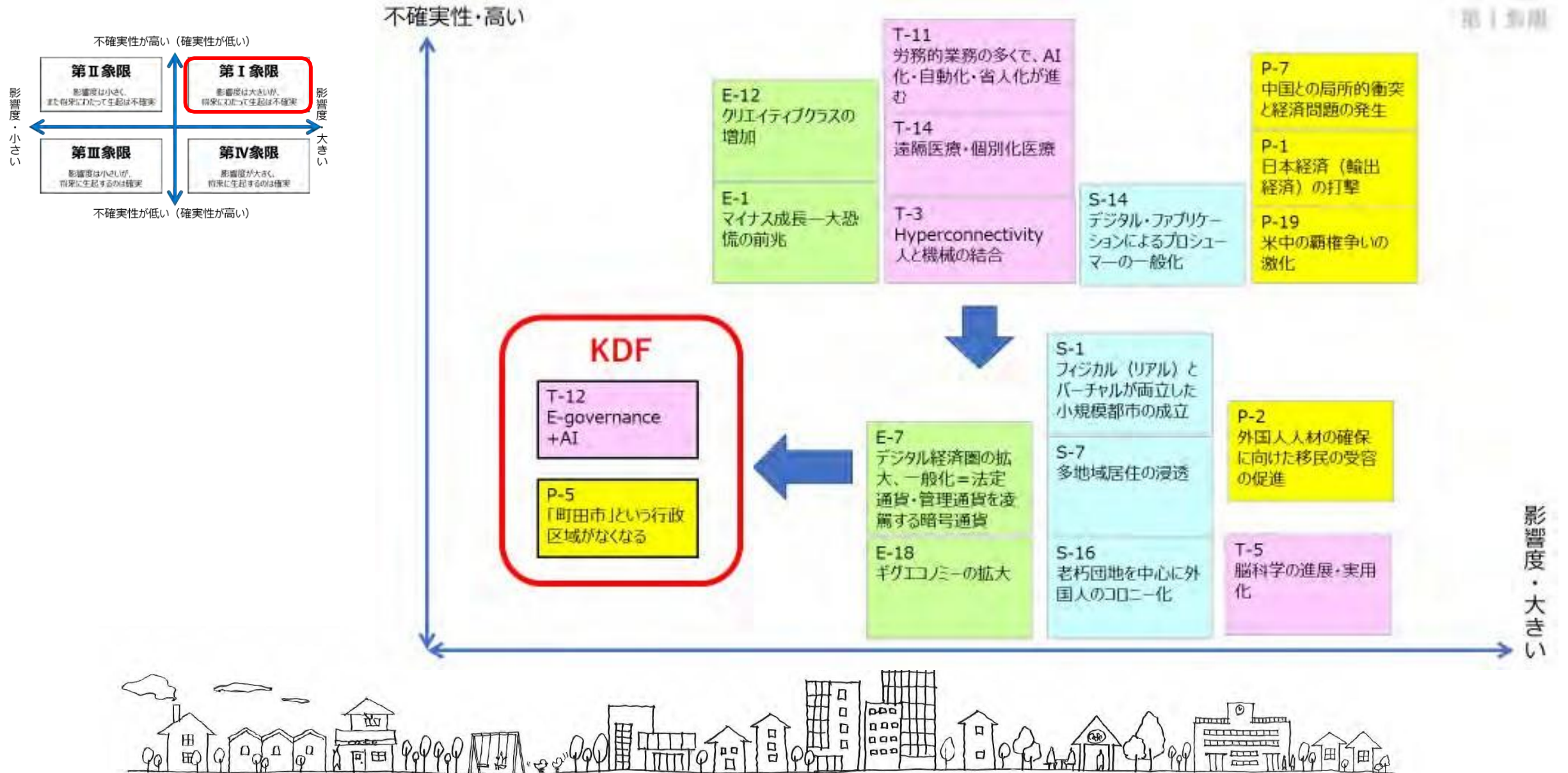
5.ワークショップ°討議の結果 (1) Aグループ° ③第Ⅲ象限



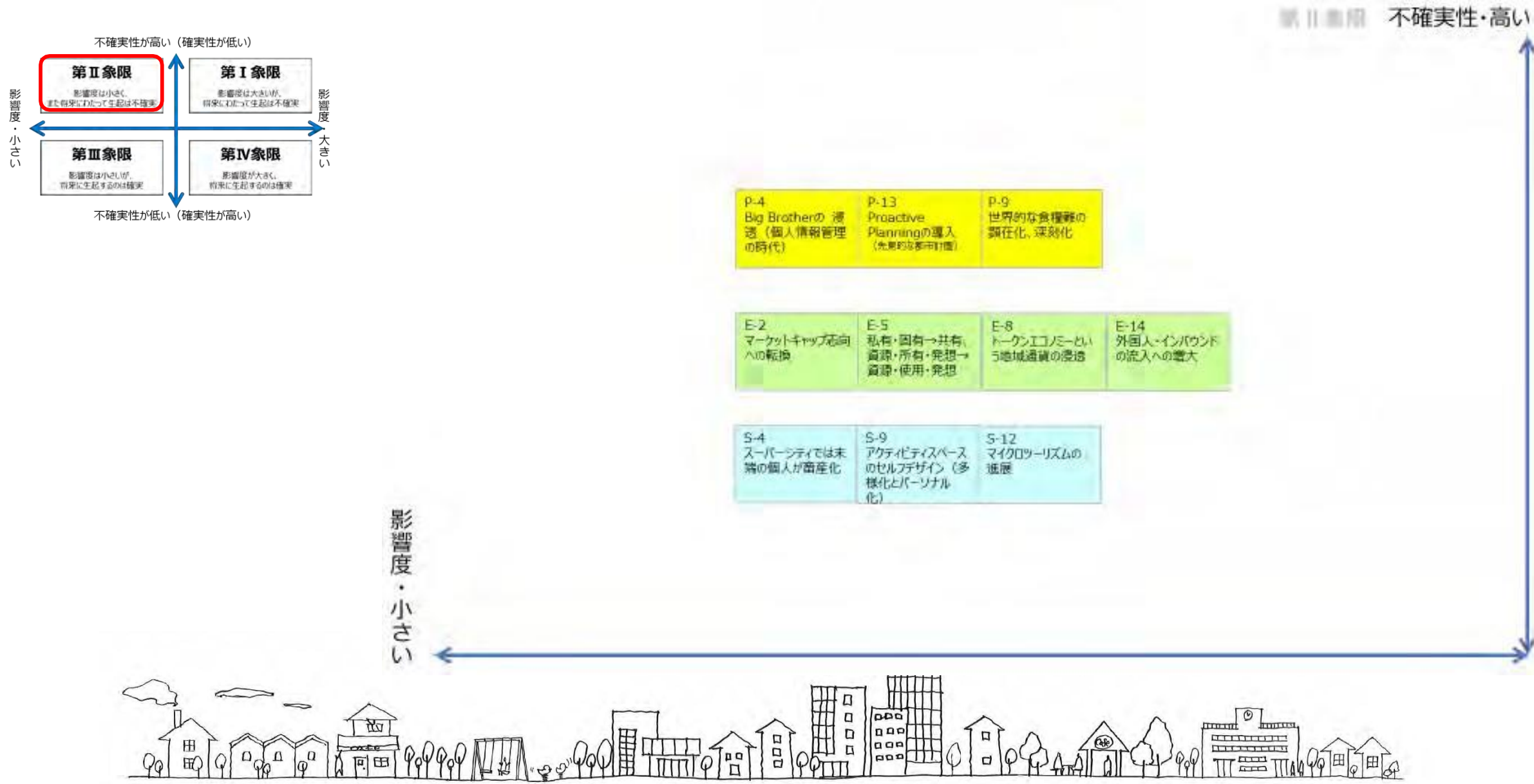
5.ワークショップ討議の結果 (1) Aグループ ④第IV象限



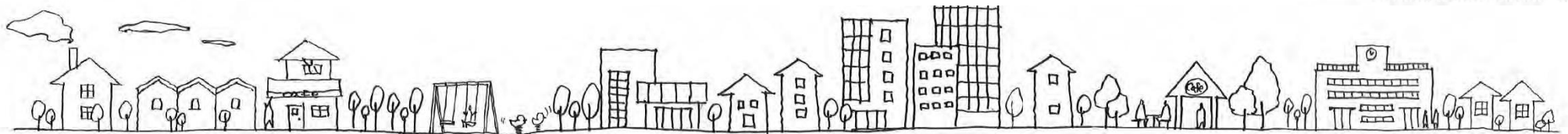
5.ワークショップ討議の結果 (2) Bグループ ①第Ⅰ象限



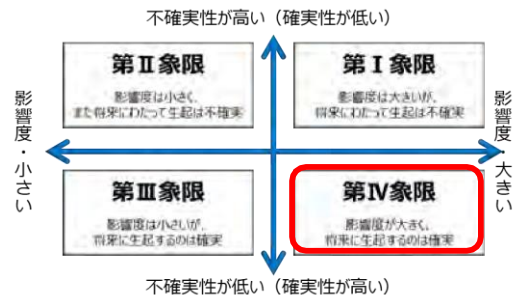
5.ワークショップ°討議の結果 (2) Bグループ ②第Ⅱ象限



5.ワークショップ°討議の結果 (2) Bグループ ③第Ⅲ象限



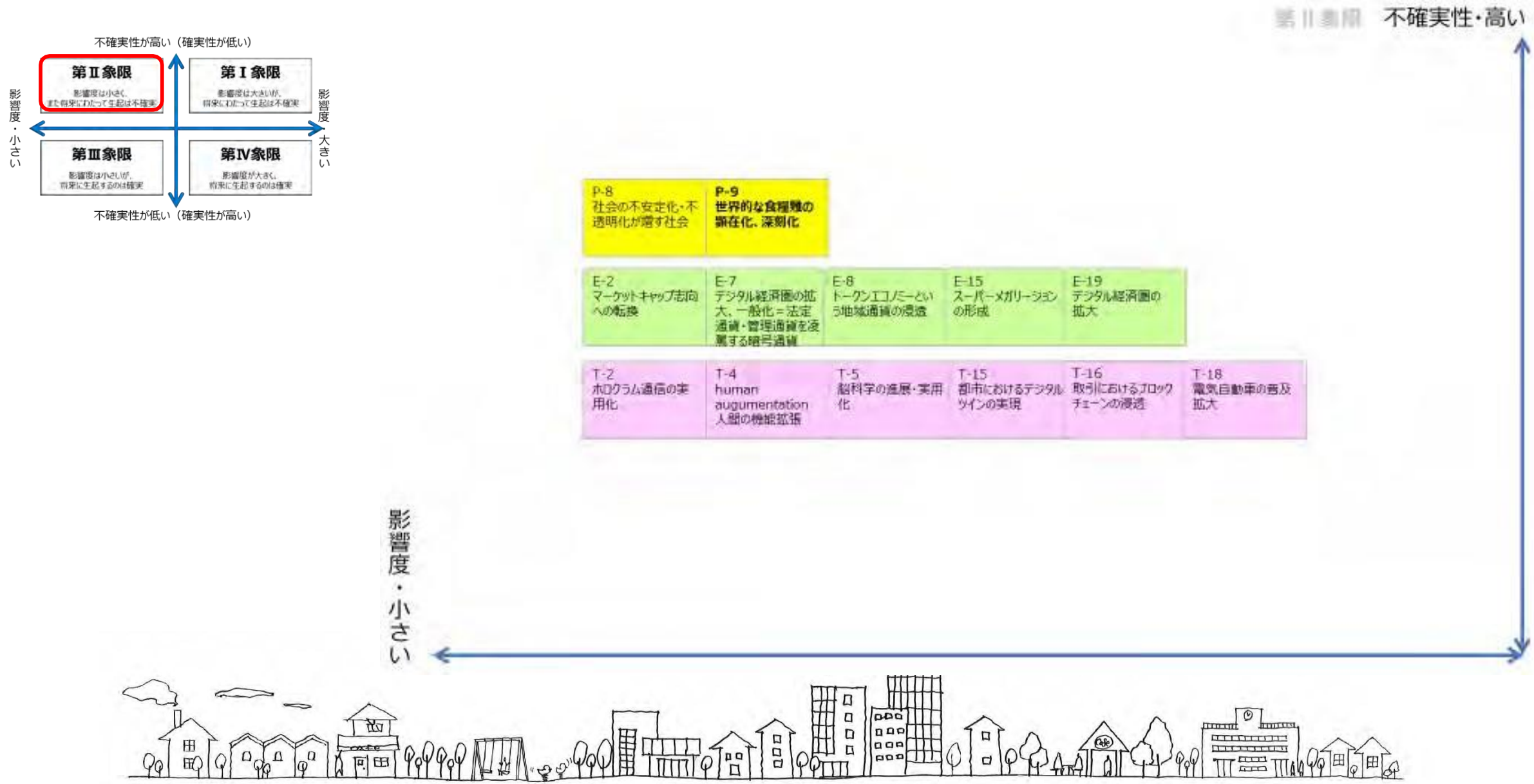
5.ワークショップ討議の結果 (2) Bグループ ④第IV象限



5.ワークショップ討議の結果 (3) Cグループ ①第Ⅰ象限



5.ワークショップ°討議の結果 (3) Cグループ ②第Ⅱ象限



5.ワークショップ°討議の結果 (3) Cグループ ③第Ⅲ象限



5.ワークショップ討議の結果 (3) Cグループ ④第Ⅳ象限



5.ワークショップ討議の結果 (4) KDF候補 (第Ⅰ象限分類) ①P (政治) & E (経済)

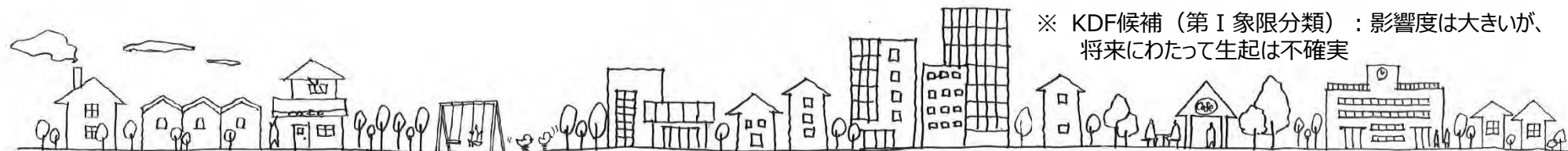
P:政治	キーワード	A	B	C
P-1	日本経済（輸出経済）の打撃		1	1
P-2	外国人人材の確保に向けた移民の受容の促進		1	
P-3	社会保障政策の破綻	1		
P-4	Big Brotherの浸透（個人情報管理の時代）	1		
P-5	「町田市」という行政区域がなくなる	1	1	1
P-6	朝鮮半島不安定化と難民受け入れ			1
P-7	中国との局所的衝突と経済問題の発生		1	
P-8	社会の不安定化・不透明化が増す社会	1		
P-9	世界的な食糧難の顕在化、深刻化	1		
P-10	財政逼迫			
P-11	官民連携・PPP・ソーシャルインパクトボンドの普及			
P-12	地域経済・インフラにおける官民の役割分担の進展			
P-13	Proactive Planningの導入（先見的な都市計画）			1
P-14	議会の先進化			
P-15	教育関連の改革が進む			1
P-16	自治体間格差が広がる			
P-17	現状の自治体単位を超えた広域連携もしくは統合がさらに進む			1
P-18	郊外団地・丘陵戸建の廃墟化			1
P-19	米中の覇権争いの激化		1	
P-20	世界は多極化			

E:経済	キーワード	A	B	C
E-1	マイナス成長—大恐慌の前兆	1	1	1
E-2	マーケットキャップ志向への転換			
E-3	在宅勤務などで、居住地周辺で働くことが一般化している			
E-4	市場経済から統制経済へ	1		1
E-5	私有（固有）→共有、建物（所有）発想から資源（使用）発想へ	1		1
E-6	ローカル事業の活性			
E-7	デジタル経済圏の拡大、一般化＝法定通貨・管理通貨を凌駕する暗号通貨		1	
E-8	トークンエコミーという地域通貨の浸透	1		
E-9	デジタルアプリケーションによるモノづくりや、働き方の変容			
E-10	経済競争激化と貧富格差の拡大			
E-11	経済・所得格差が複雑化			
E-12	クリエイティブクラスの増加		1	1
E-13	カスタマイズ化された教育の一般化			
E-14	外国人・インバウンドの流入への増大			
E-15	スーパーメガリージョンの形成			
E-16	リニアモーターカー新駅			
E-17	シェアリングエコノミーの進展			1
E-18	ギグエコノミーの拡大		1	
E-19	デジタル経済圏の拡大			
E-20	仮想通貨（暗号通貨）の世界的な浸透			

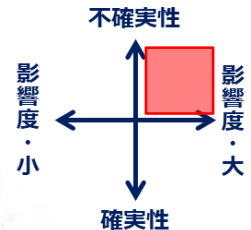
：3グループ共通でKDF候補

：少なくとも2グループ共通でKDF候補

灰色字：いずれのグループでもKDF候補（第Ⅰ象限分類）にならなかったカード



※ KDF候補（第Ⅰ象限分類）：影響度は大きい、将来にわたって生起は不確実



5.ワークショップ討議の結果 (4) KDF候補 (第Ⅰ象限分類) ②S (社会) & T (技術)

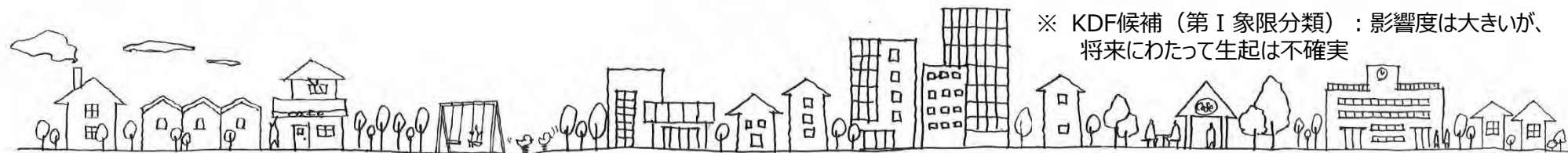
S:社会	キーワード	A	B	C
S-1	フィジカル (リアル) とバーチャルが両立した小規模都市の成立		1	1
S-2	首都大震災の発生や激甚自然災害の頻発化			1
S-3	新たな感染症拡大による行動規制と社会変容 (例. Withコロナ)	1		1
S-4	スーパーシティでは末端の個人が畜産化	1		
S-5	リアルベース派から、デジタルネイティブ派が主流へ			
S-6	脱東京依存・開疎化			1
S-7	多地域居住の浸透		1	
S-8	都心アクセス優位性低下			
S-9	アクティビティスペースのセルフデザイン (多様化とパーソナル化)			
S-10	人口減少による消滅都市の増加	1		
S-11	個人情報への捕捉が容認される	1		
S-12	マイクロツーリズムの進展	1		
S-13	時間や手間の効率化を重視する価値観のさらなる浸透			
S-14	デジタル・ファブリケーションによるプロシューマーの一般化		1	
S-15	マストランジットの進化 = MaaS			
S-16	老朽団地を中心に外国人のコロニー化	1	1	1
S-17	生活困窮者の増加、社会不安拡大	1		
S-18	旧住民と新住民の分断が加速する	1		
S-19	大都市郊外における急速な高齢化			
S-20	社会の格差・分断増	1		

T:技術	キーワード	A	B	C
T-1	デジタル生活における住宅空間の可変性とコネクテッド化の進展			
T-2	ホログラム通信の実用化			
T-3	Hyperconnectivity人と機械の結合	1	1	1
T-4	human augmentation人間の機能拡張	1		
T-5	脳科学の進展・実用化	1	1	
T-6	スマート農業の一般化			
T-7	ドローンの普及による空飛ぶ宅配トラックの登場			
T-8	デジタルデバイドの顕在化と深刻化			
T-9	サーキュラーエコノミーの定着化によるモノづくりの変容			
T-10	スマートシティ化の実現	1		
T-11	労務的業務の多くで、AI化・自動化・省人化 (人手不足・人力軽減) が進む		1	
T-12	E-governance+AI	1	1	
T-13	地球環境を考慮した持続可能なエネルギーの創出			
T-14	遠隔医療・個別化医療		1	1
T-15	都市におけるデジタルツイン (リアルとバーチャル) の実現			
T-16	取引におけるブロックチェーンの浸透			
T-17	自動運転・隊列走行の実現			1
T-18	電気自動車の普及拡大			
T-19	プラットフォームの伸長	1		1
T-20	デジタルエリアマネジメントの推進	1		

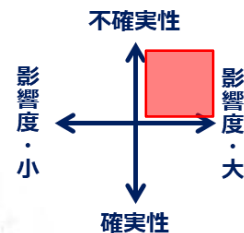
：3グループ共通でKDF候補

：少なくとも2グループ共通でKDF候補

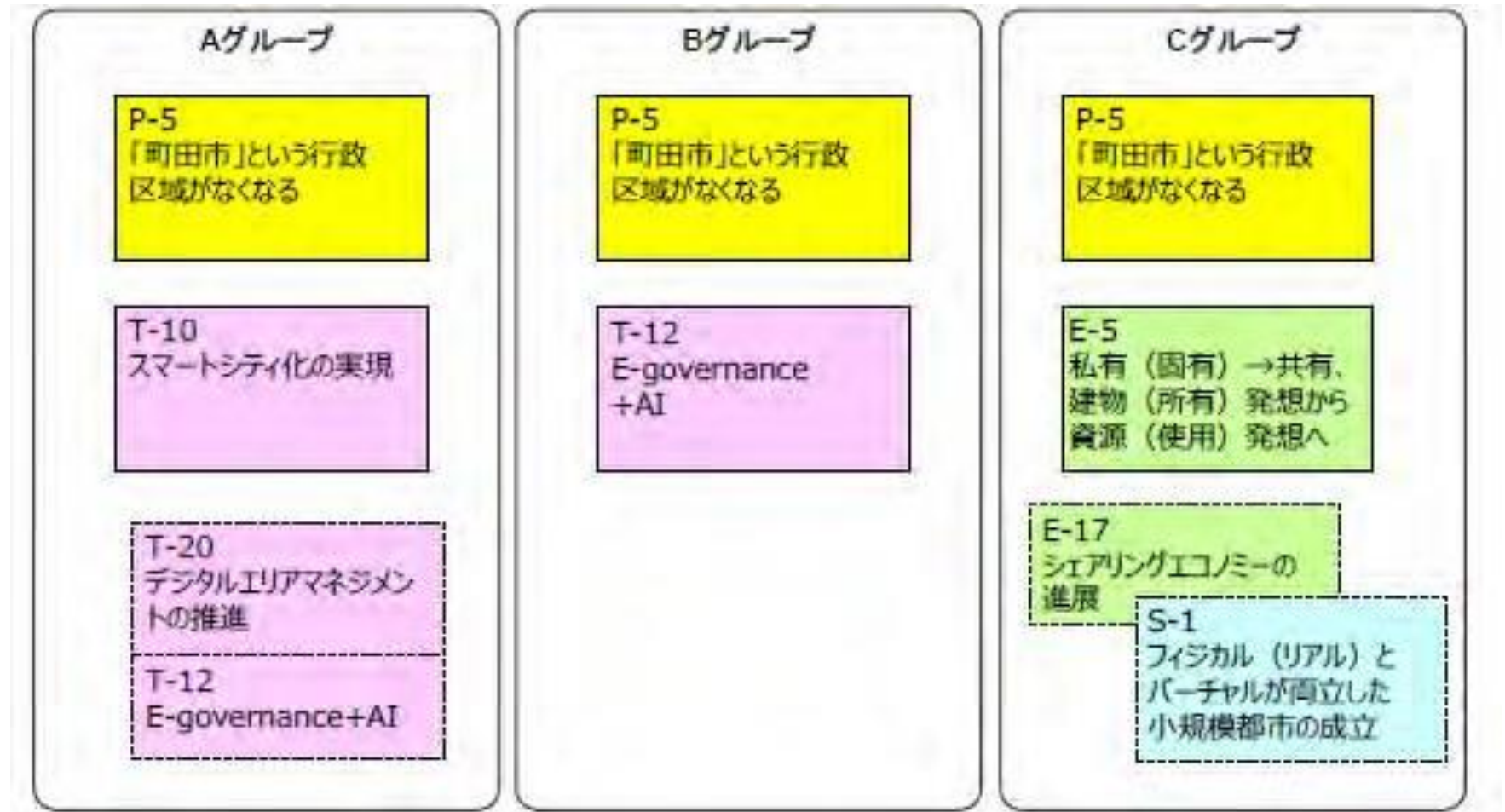
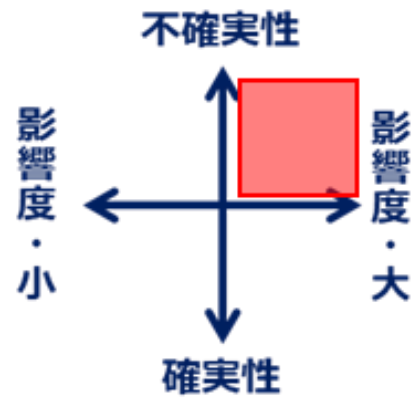
灰色字：いずれのグループでもKDF候補 (第Ⅰ象限分類) にならなかったカード



※ KDF候補 (第Ⅰ象限分類)：影響度は大きい、将来にわたって生起は不確実



5.ワークショップ°討議の結果 (4) KDF候補 (第Ⅰ象限分類) ③まとめ



5.ワークショップ討議の結果 (5) ベースシナリオ候補 (第Ⅳ象限分類) ①P (政治) & E (経済)

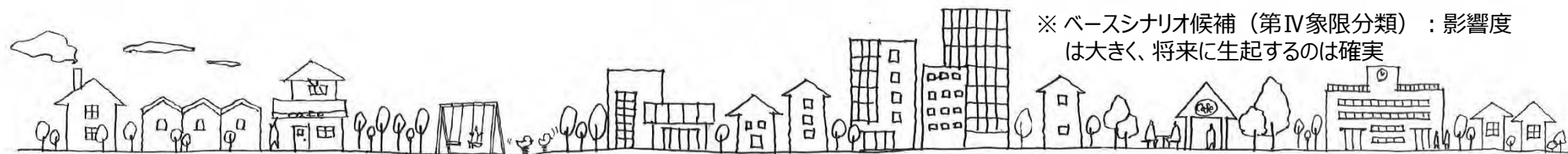
P:政治	キーワード	A	B	C
P-1	日本経済（輸出経済）の打撃	1		
P-2	外国人人材の確保に向けた移民の受容の促進	1		1
P-3	社会保障政策の破綻		1	1
P-4	Big Brotherの浸透（個人情報管理の時代）			1
P-5	「町田市」という行政区域がなくなる			
P-6	朝鮮半島不安定化と難民受け入れ			
P-7	中国との局所的衝突と経済問題の発生			
P-8	社会の不安定化・不透明化が増す社会		1	
P-9	世界的な食糧難の顕在化、深刻化			
P-10	財政逼迫	1	1	1
P-11	官民連携・PPP・ソーシャルインパクトボンドの普及	1	1	1
P-12	地域経済・インフラにおける官民の役割分担の進展	1		1
P-13	Proactive Planningの導入（先見的な都市計画）			
P-14	議会の先進化			
P-15	教育関連の改革が進む	1	1	
P-16	自治体間格差が広がる		1	1
P-17	現状の自治体単位を超えた広域連携もしくは統合がさらに進む	1		
P-18	郊外団地・丘陵戸建の廃墟化	1		
P-19	米中の覇権争いの激化			
P-20	世界は多極化		1	

E:経済	キーワード	A	B	C
E-1	マイナス成長一大恐慌の前兆			
E-2	マーケットキャップ志向への転換			
E-3	在宅勤務などで、居住地周辺で働くことが一般化している	1	1	
E-4	市場経済から統制経済へ			
E-5	私有（固有）→共有、建物（所有）発想から資源（使用）発想へ			
E-6	ローカル事業の活性			
E-7	デジタル経済圏の拡大、一般化	1		
E-8	トークンエコノミーという地域通貨の浸透			
E-9	デジタルファブリケーションによるモノづくりや、働き方の変容	1		
E-10	経済競争激化と貧富格差の拡大		1	1
E-11	経済・所得格差が複雑化		1	
E-12	クリエイティブクラスの増加	1		
E-13	カスタマイズ化された教育の一般化	1	1	1
E-14	外国人・インバウンドの流入への増大			
E-15	スーパーメガリージョンの形成			
E-16	リニアモーターカー新駅			
E-17	シェアリングエコノミーの進展	1	1	
E-18	ギグエコノミーの拡大	1		1
E-19	デジタル経済圏の拡大			
E-20	仮想通貨（暗号通貨）の世界的な浸透			1

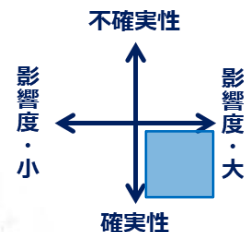
：3グループ共通でKDF候補

：少なくとも2グループ共通でKDF候補

灰色字：いずれのグループでもベースシナリオ候補（第Ⅳ象限分類）にならなかったカード



※ ベースシナリオ候補（第Ⅳ象限分類）：影響度は大きく、将来に生起するのは確実



5.ワークショップ討議の結果 (5) ベースシナリオ候補 (第Ⅳ象限分類) ②S(社会) & T(技術)

S:社会	キーワード	A	B	C
S-1	フィジカル（リアル）とバーチャルが両立した小規模都市の成立			
S-2	首都大震災の発生や激甚自然災害の頻発化	1	1	
S-3	新たな感染症拡大による行動規制と社会変容		1	
S-4	スーパーシティでは末端の個人が畜産化			1
S-5	リアルベース派から、デジタルネイティブ派が主流へ		1	
S-6	脱東京依存・開疎化	1	1	
S-7	多地域居住の浸透			
S-8	都心アクセス優位性低下	1		1
S-9	アクティビティスペースのセルフデザイン	1		
S-10	人口減少による消滅都市の増加		1	1
S-11	個人情報への捕捉が容認される			1
S-12	マイクロツーリズムの進展			1
S-13	時間や手間の効率化を重視する価値観のさらなる浸透	1		1
S-14	デジタル・ファブリケーションによるプロシューマーの一般化			
S-15	マストランジットの進化 = MaaS	1	1	
S-16	老朽団地を中心に外国人のコロニー化			
S-17	生活困窮者の増加、社会不安拡大		1	1
S-18	旧住民と新住民の分断が加速する		1	
S-19	大都市郊外における急速な高齢化	1	1	1
S-20	社会の格差・分断増			1

T:技術	キーワード	A	B	C
T-1	デジタル生活における住宅空間の可変性とコネクテッド化の進展		1	
T-2	ホログラム通信の実用化		1	
T-3	Hyperconnectivity			
T-4	human augmentation		1	
T-5	脳科学の進展・実用化			
T-6	スマート農業の一般化		1	
T-7	ドローンの普及による空飛ぶ宅配トラックの登場			
T-8	デジタルデバイドの顕在化と深刻化	1		
T-9	サーキュラーエコノミーの定着化によるモノづくりの変容			1
T-10	スマートシティ化の実現		1	1
T-11	労務的業務の多くで、AI化・自動化・省人化（人手不足・人力軽減）が進	1		
T-12	E-governance+AI			
T-13	地球環境を考慮した持続可能なエネルギーの創出			1
T-14	遠隔医療・個別化医療	1		
T-15	都市におけるデジタルツイン（リアルとバーチャル）の実現		1	
T-16	取引におけるブロックチェーンの浸透	1	1	
T-17	自動運転・隊列走行の実現		1	
T-18	電気自動車の普及拡大			
T-19	プラットフォームの伸長			
T-20	デジタルエリアマネジメントの推進			1

： 3 グループ共通でKDF候補

： 少なくとも2 グループ共通でKDF候補

灰色字：いずれのグループでもベースシナリオ候補（第Ⅳ象限分類）にならなかったカード



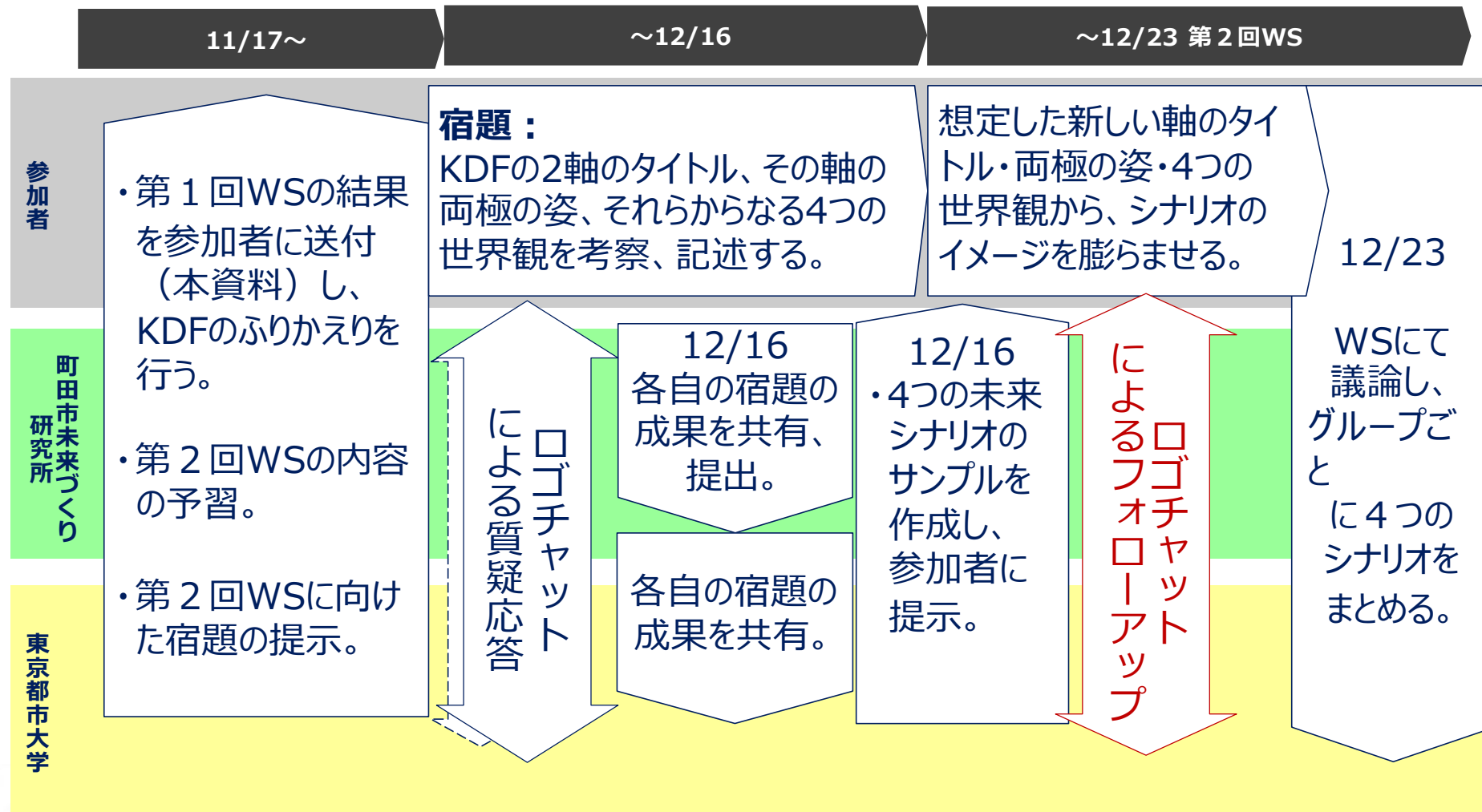
※ ベースシナリオ候補（第Ⅳ象限分類）：影響度は大きく、将来に生起するのは確実



Ⅲ 第2回ワークショップに向けた宿題



1.ワークフロー（第1回ワークショップ～第2回ワークショップ）



2.宿題の課題内容

宿題①

第1回ワークショップで抽出した2つのKDF（カードのキーワード）について、それぞれその本質的な意味を考え、軸のタイトルをつける。

宿題②

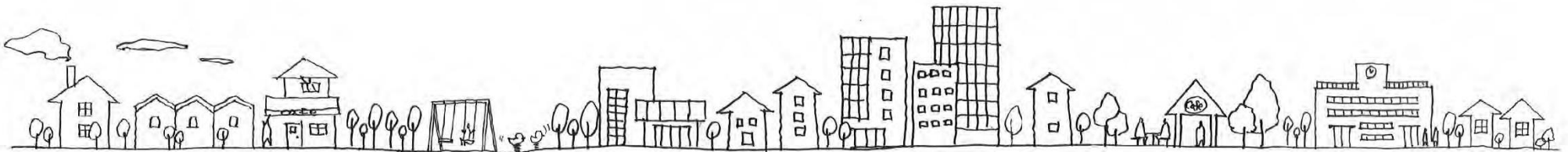
KDFを軸とした場合、その両極の姿、状態を検討し、記述する。

宿題③

2つのKDF（本質的な意味と、その両極の状態）＝軸により構成される4つの象限について、その世界観を記述する。



26



IV 第2回ワークショップ (2020年12月23日 (水) 14~17時)



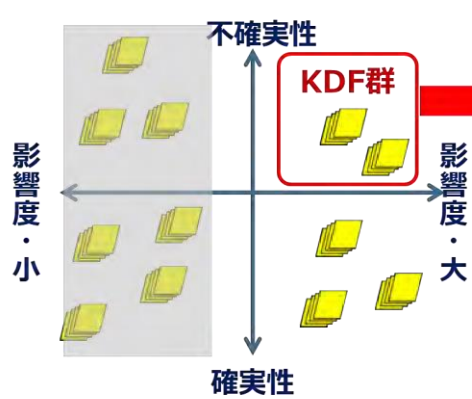
1.第2回ワークショップの目的

- 事前に共有していた宿題をもとに、未来シナリオを検討し、想定する。
- グループごとに作成した未来シナリオを発表・共有する。

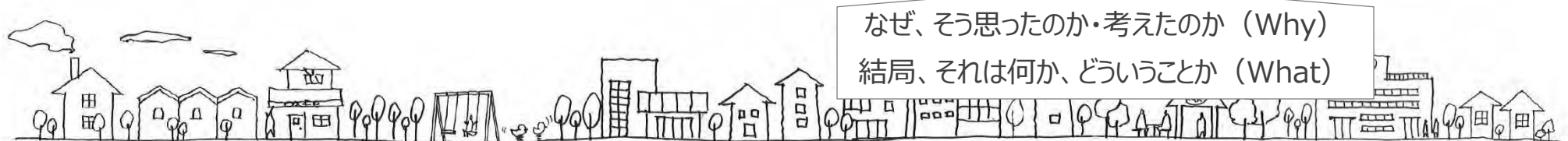
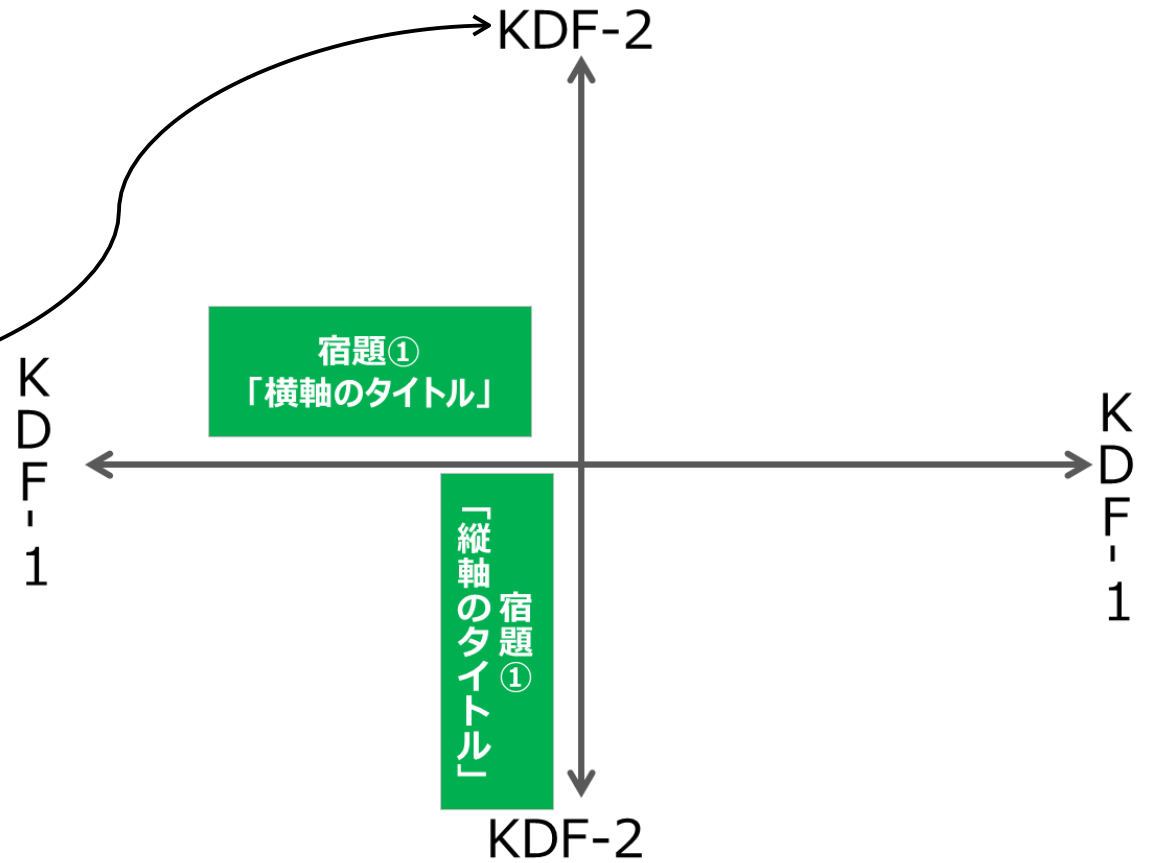


2.ワークショップ（2回目）の内容

第1回 ワークショップの結果

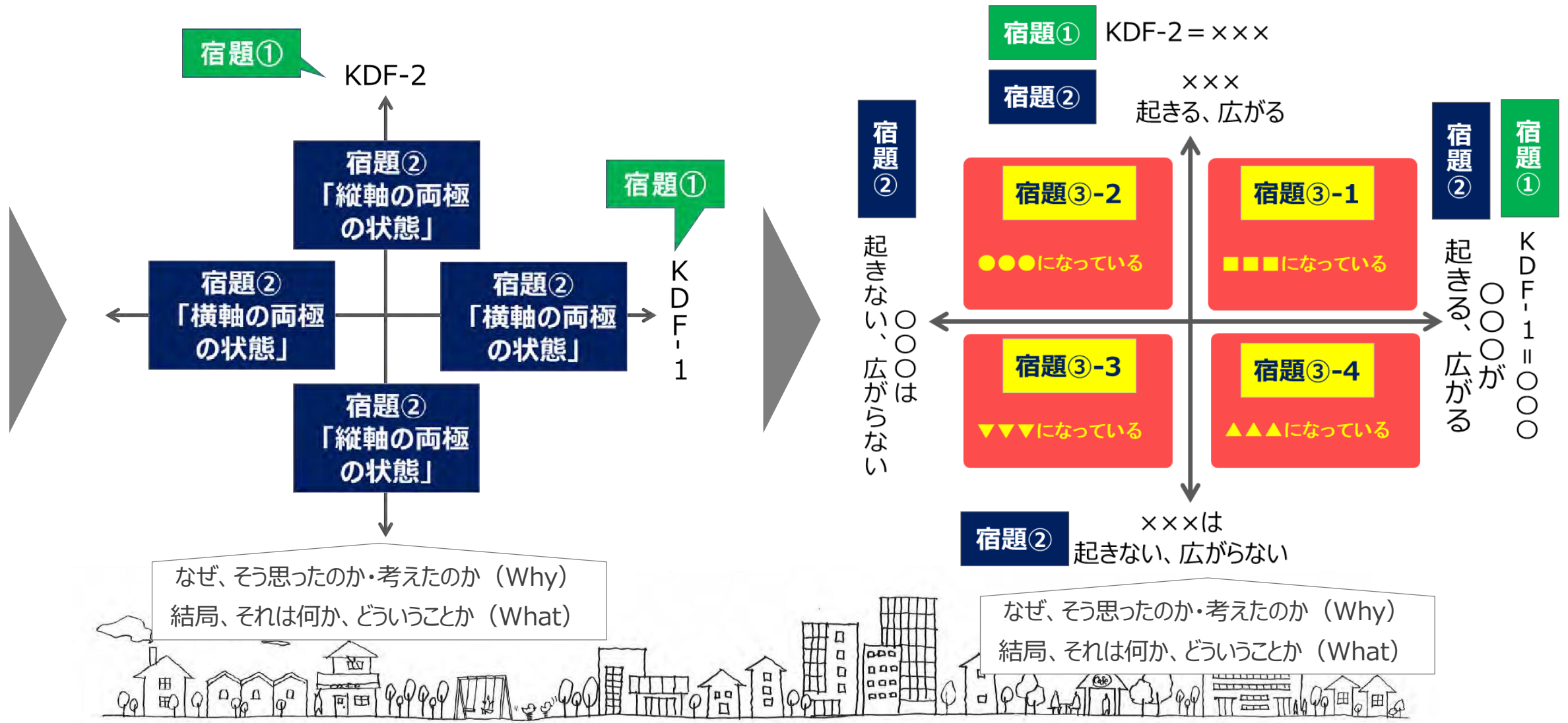


宿題を踏まえて、各人のアイデアをベースに討議・絞り込み



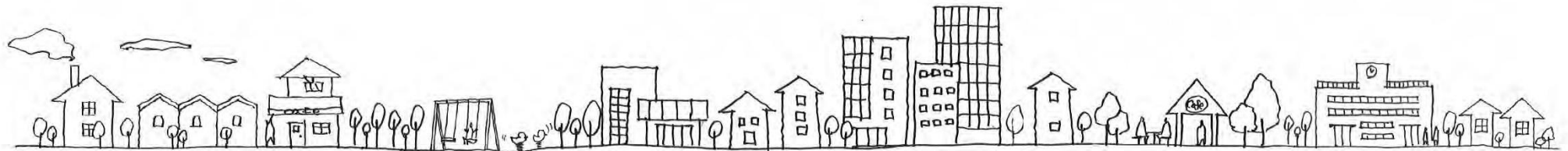
2.ワークショップ（2回目）の内容

宿題を踏まえて、各人のアイデアをベースに討議・絞り込み



3.タイムテーブル（当初設定）

13:00～14:00	リアル	機材設置・動作確認、事前打ち合わせ・確認	
14:00～14:15（15）	Zoom	挨拶＆本日のWSのガイダンス	
14:15～ 16:30（135） ※適宜休憩	リアル	グループワーク・テーマ① ・KDFの2つの要素（軸）のタイトルを決める（宿題①） ・KDFの2つの軸の両極のイメージを決める（宿題②） ・2軸からなる4つの象限の“（未来シナリオの）世界観”の方向性を決める（宿題③）	目安 40
		グループワーク・テーマ② ・未来シナリオサンプル（町田市未来づくり研究所）を参考に、 各自が膨らましたイメージをもとに、チームごとに4つの未来シナリオ作成	目安 80
		（最終確認しながら、討議の成果をPPT上の既設のフレームワークにより清書）	目安 15
16:30～16:45（15）	Zoom	グループワークの発表＆質疑応答 （質問者は各回、他のグループから2名ずつ）	
16:45～17:00（15）		総評＆閉会の挨拶	



4.各グループの討議結果 (1) Aグループ ①第Ⅰ象限

き つ か け

時期：2045年

- ・ 他の自治体との吸収・合併（総務省＝国の自治に対する姿勢の影響） ←道州制を見通して
- ・ 相模原市と合併すれば、産業（工業）や水源、リニア駅を含めて、自治体の力を増強できる
- ・ モビリティの進化
- ・ 高度なデジタル化、自動化、シンギュラリティ ～サービスの省人化
- ・ 会話の完全自動翻訳化
- ・ ロボット技術の超進化
- ・ 行政サービスのデジタル化で場所（地理）を問わない新しい自治体合併の形

結 果

2050年の世界観：「万能都市」

- 【行政】 ・ マイナンバーなくなる？行政窓口（人）がなくなる＝市民が自身で行う、調査もオートマチックに
- 【市民】 ・ 家にいながら何でもできる、住みたいところに住む、コンパクトシティの逆方向
- ・ バーチャル観光（観光地不要）⇔バーチャルを契機とするリアルなマイクロツーリズム
 - ・ 世界的にスキルフルな人が魅力を感じる ＝日本・町田でワーケーション
 - ・ 介護、診療のロボット処理化＝省人化



4.各グループの討議結果 (1) Aグループ ②第Ⅱ象限

き つ か け

時期：2045年

- 企業の支店、支所がなくなる
- 市民協働（コミュニティ機能）のオンライン化
- 現状の町田市のまま、マイナンバーのデジタル化などスマートシティ化の過程でNEO化

結 果

2050年の世界観：「NEO MACHIDA（人情が残るゆえに、実は理想都市）」

- 【行政】
- 現状の町田市のみまで（自治が）維持できる
 - （従来イメージの）コンパクトシティ・スマートシティ ～自律分散型都市
 - 自給自足・地産地消化（食料、エネルギー）？
- 【市民】
- 相原のようなところでも便利に暮らせる
 - （一定程度）人口がいる、民間企業もいる
 - 行き過ぎた効率化・無駄の排除で商業地の衰退化
 - “近さ”をベースに人の温かみができる＝人というリアル ～リアルとロボット・デジタルのハイブリット福祉 ～安心感



4.各グループの討議結果 (1) Aグループ ③第Ⅲ象限

き つ か け

時期：2035年

- ・ 神奈中（バス）の撤退（乗客、乗務員の減少）など、公共交通の衰退
- ・ 自然災害（例。境川の大洪水）
- ・ 団地（インフラ）の老朽化と人が住まなくなる ～軒並み崩壊
- ・ 年金、健康保険の破綻で衰退へダメ押し

結 果

2050年の世界観：「たそがれ まちだ」

- 【行政】
- ・ 周りがスマートシティ化するトレンドの中で出遅れる＝他の都市が際立つ？
 - ・ 団地そのまま
 - ・ 町田独自にこだわり失敗する
- 【市民】
- ・ 人が流出する～負のスパイラル（税収不足～行政サービス低下～人口流出）→消滅都市
 - ・ 温かみはあるが、需要に供給者（人）が追い付かない
 - ・ 残った人たちの結束力がある



4.各グループの討議結果 (1) Aグループ ④第Ⅳ象限

き つ か け

時期：2040年

- 他の自治体との吸収・合併（総務省＝国の自治に対する姿勢の影響） ←道州制を見通して
- 相模原市と合併すれば、産業（工業）や水源、リニア駅を含めて、自治体の力を増強できる

結 果

2050年の世界観：「メタボトシ」

- 【行政】
- 技術が発展していないが、行政の地理的範囲が広がる（業務が広がる）
 - 旧来の町田市以外の地域まで面倒見切れない、市内での地域間格差
 - 広域になるものの、システムの規格が合わず、スマート化が進まない
 - 合併によるデメリットの顕在化 ～財政危機、合併前の地区との整合性が見つからない ～内部分裂
- 【市民】
- 福祉の崩壊
 - 都市拠点の多角化で、これまでの中心地（町田駅）の衰退
 - とにかく不便（どこにいくにも遠いし、不便） →コンパクトシティへ逃避・流出
 - 「たそがれまちだ」よりも始末に悪い ～人間味がない



4.各グループの討議結果 (2) Bグループ ①第Ⅰ象限

き つ か け

時期：2020年

- コロナによるテレワークの普及
- 人口減の兆候
- 情報システム一元化（2030年まで）

結 果

2050年の世界観：「何も考えずにすむ」

- 地方自治消滅・デジタルプラットフォーム自治
- 税制見直し
- マイナンバーで国民一元管理
- 行政サービスが消える
- 原則オンライン手続き
- 自治体職員のSE化
- 情報管理簡素化、完全なる情報化社会
- どこでも均一な広域行政サービス
- オンライン手続き
- 行政業務の委託



時期：2020年以降

- コロナ継続または次のパンデミック

2050年の世界観：「便利になった町田市」

- 行政の完全デジタル化・自動化
- どこでも均一、独自性のある行政サービス拡充
- ノブレスオブリージュ的に“持ち得る者の義務”、“持たざる者の権利”が明確化
- サプライ側デマンド側は一方通行に。
- 段階的な情報化社会
- オンライン議会、投票



時期：2040年頃までに

- ・ 生産年齢人口減

2050年の世界観：「じり貧化する町田」

- ・ ブラック労働化、ジリ貧化する行財政
- ・ 人手不足による行政サービス縮小
- ・ 選ばれる自治体たるための顧客争い激化
- ・ 自治体業務の細分化、個人化
- ・ 自治体間競争激化
- ・ 縦社会の存続
- ・ 窓口に行かなければならない
- ・ 市役所ケータイショップ化（予約）



時期：2040年頃

- 人と金がなくなる

2050年の世界観：「地方自治の失敗」

- 町田市役所から国直轄「出張所」へ
- 税金は保険の掛け金のようなものに、サービス享受は配当のようなものに。
- 行政サービスは今までの「平等」とは違った意味合いに、受け方を選択できる。
- 行政サービスは選べない



4.各グループの討議結果 (3) Cグループ ①第Ⅰ象限

き
つ
か
け

時期：2050年頃

- ・P：自治体が居住地にかかわらず世界中の人々を巻き込めるようになる
- ・E：リアル通貨とデジタル通貨
- ・S：人口が減り、デジタルのつながりが増える、関係人口が増える
- ・T：アンドロイド、AI・IoT技術の進展、デジタルツイン

結
果

2050年の世界観：「登録者1000万人世界都市町田」

- ・ワーケーションの進展
- ・格差は広がる
- ・労働力不足の解消
- ・AR美術館
- ・高度専門性な医療が受けられる
- ・ワーケーションの進展



4.各グループの討議結果 (3) Cグループ ②第Ⅱ象限

き
つ
か
け

時期：2030～2040年頃

- ・S：オフィスの確保が不要になる、特定の場所に居住することの価値が下がる

結
果

2050年の世界観：「地域密着型、東京なら町田」

- 地方活性化
- 過疎・高齢化の解消



4.各グループの討議結果 (3) Cグループ ③第Ⅲ象限

き
つ
か
け

時期：2030年頃

- S：若年層の転出、人口減少

結
果

2050年の世界観：「選ばれない自治体・町田市」

- ローカルな直売所やスーパーは機能する（食べ物の取引はデジタル化されない）
- 消滅自治体



4.各グループの討議結果 (3) Cグループ ④第Ⅳ象限

き
つ
か
け

時期：2040～2050年頃

- P：税金のふるさと納税化、民間による公共施設管理

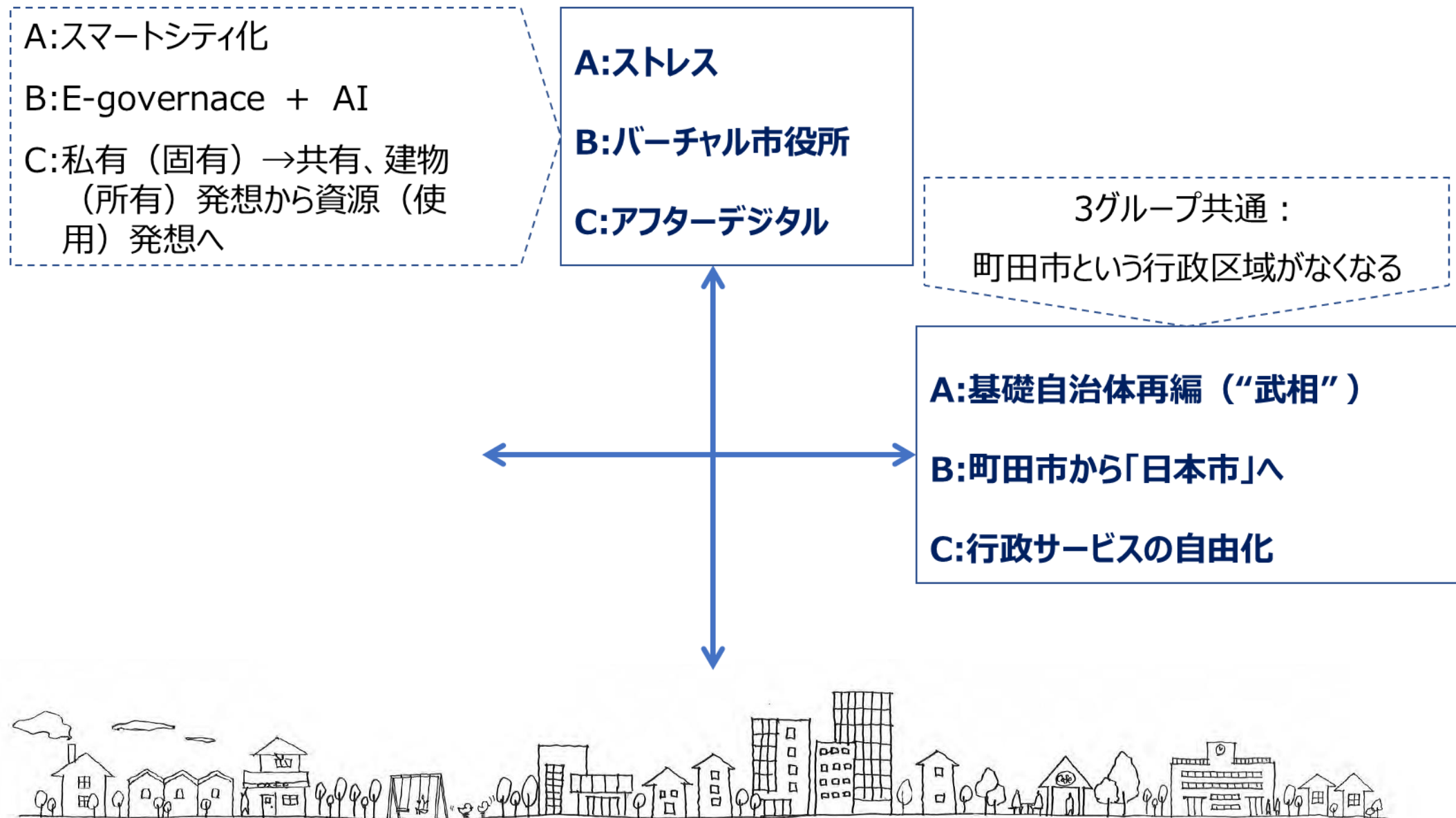
結
果

2050年の世界観：「赤字経営・町田市（選ばれるけど維持はできない）」

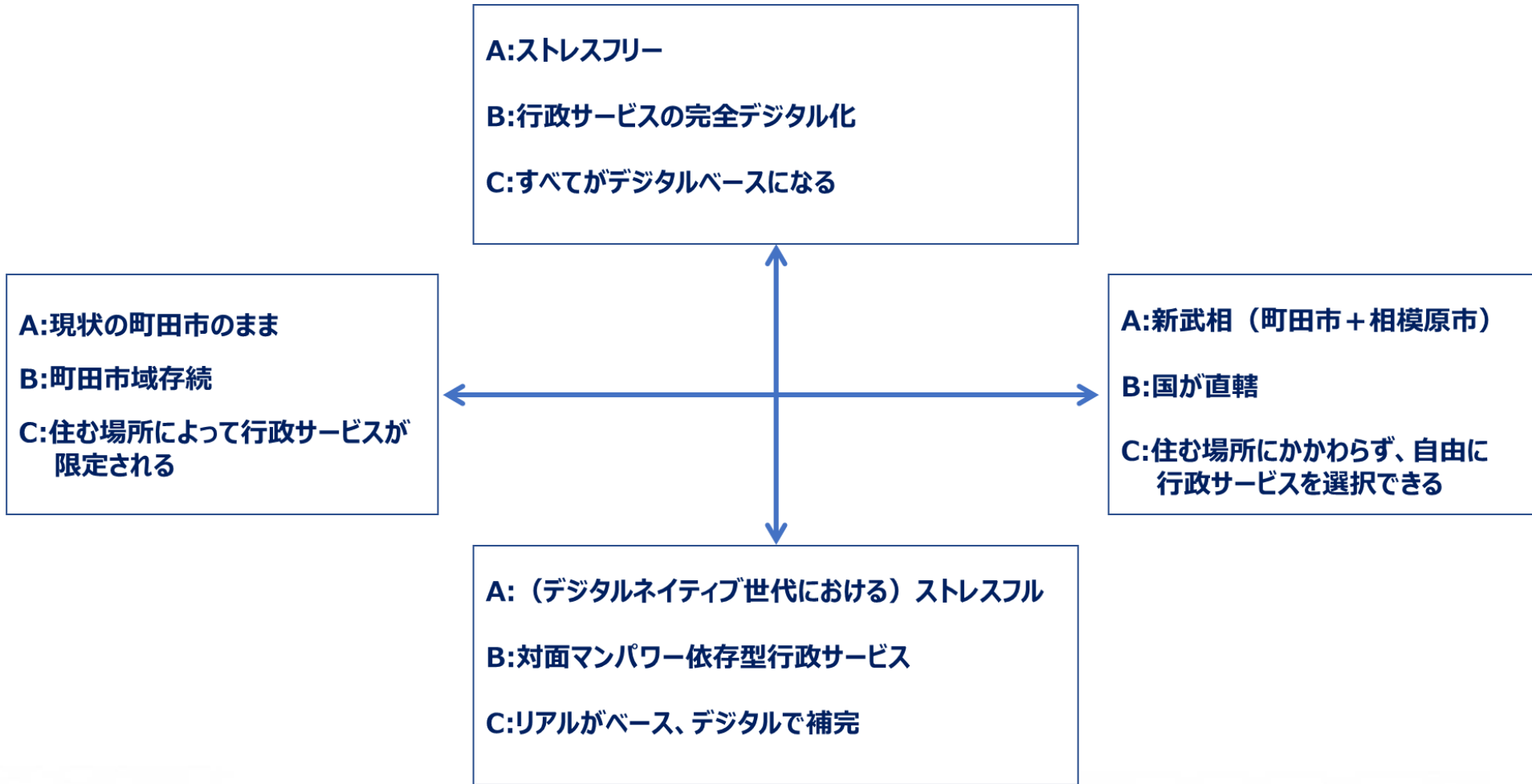
- オーダーメイド介護サービス
- 行政サービスの宅配



5.ワークショップの討議結果のまとめ (1) 軸の解釈



5.ワークショップの討議結果のまとめ (2) 2軸の両極の姿



5.ワークショップの討議結果のまとめ (3) 4つの象限の世界観

A:NEO MACHIDA

=今の町田のまま効率的になっている

B:便利になった町田市

=行政の完全デジタル化・自動化／どこでも均一、独自性のある行政サービス拡充／ノブレスオブリージュ的に“持ち得る者の義務”、“持たざる者の権利”が明確化／サプライ側デマンド側は一方通行に。／段階的な情報化社会／オンライン議会、投票

C: 地域密着型東京なら町田市

= -

A:万能都市

=山、緑、水、資源豊富、独立経済圏、域内移動便利、どこでも住める

B:何も考えずにすむ

=地方自治消滅・デジタルプラットフォーム自治／税制見直し／マイナンバーで国民一元管理／行政サービスが消える／原則オンライン手続き／自治体職員のSE化／情報管理簡素化、完全なる情報化社会／どこでも均一な広域行政サービス

C:登録者1000万人世界都市町田

= -

A:たそがれ まちだ

=取り残される、経済下降、落日・黄昏、フェードアウト

B:じり貧化する町田

=ブラック労働化、ジリ貧化する行財政／人手不足による行政サービス縮小／選ばれる自治体たるための顧客争い激化／自治体業務の細分化、個人化／自治体間競争激化／縦社会の存続／窓口に行かなければならない／市役所ケータイショップ化（予約）

C:選ばれない自治体・町田市

= -

A:メタボ トシ

=万能ではない、重たい、余計（無駄）に広い、行き届かない

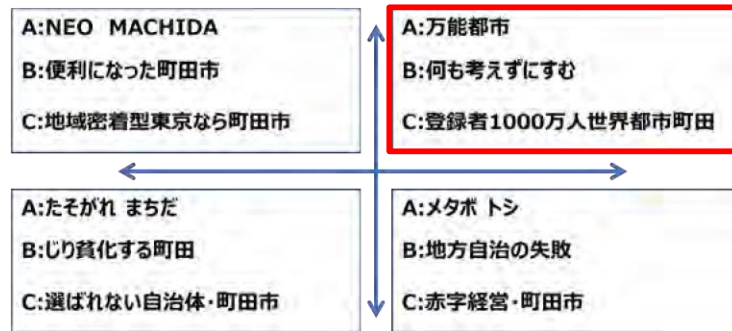
B:地方自治の失敗

=町田市役所から国直轄「出張所」へ／税金は保険の掛け金のようなものに、サービス享受は配当のようなものに。／行政サービスは今までの「平等」とは違った意味合いに、受け方を選択できる。／行政サービスは選べない

C:赤字経営・町田市

= -

5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ①第一象限 1) きっかけ



A: <2045年> (⇒2050年、万能都市)

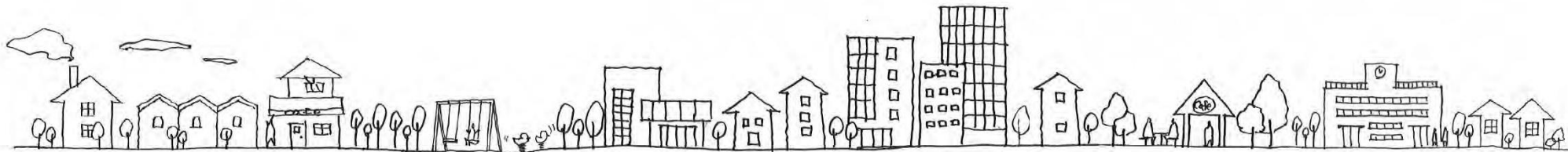
- 他の自治体との吸収・合併（総務省＝国の自治に対する姿勢の影響） ←道州制を見通して
- 相模原市と合併すれば、産業（工業）や水源、リニア駅を含めて、自治体の力を増強できる
- モビリティの進化
- 高度なデジタル化、自動化、シンギュラリティ ～サービスの省人化
- 会話の完全自動翻訳化
- ロボット技術の超進化
- 行政サービスのデジタル化で場所（地理）を問わない新しい自治体合併の形

B: <2020年> (⇒2050年、何も考えずにすむ)

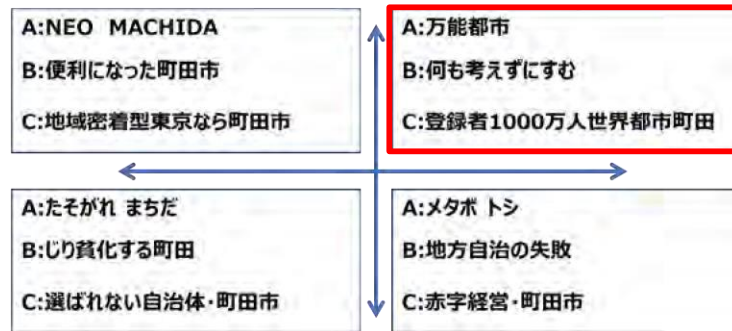
- コロナによるテレワークの普及
- 人口減の兆候
- 情報システム一元化（2030年まで）

C: <2050年頃> (⇒2050年、登録者1000万人世界都市町田)

- 自治体が居住地にかかわらず世界中の人々を巻き込めるようになる
- リアル通貨とデジタル通貨
- 人口が減り、デジタルのつながりが増える、関係人口が増える
- アンドロイド、AI・IoT技術の進展、デジタルツイン



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ①第一象限 2) 2050年の姿



A:万能都市

【行政】

- マイナンバーなくなる？行政窓口（人）がなくなる＝市民が自身で行う、調査もオートマチックに

【市民】

- 家にいながら何でもできる、住みたいところに住む、コンパクトシティの逆方向
- バーチャル観光（観光地不要）⇔バーチャルを契機とするリアルなマイクロツーリズム
- 世界的にスキルフルな人が魅力を感じる＝日本・町田でワーケーション
- 介護、診療のロボット処理化＝省人化

B:何も考えずにすむ

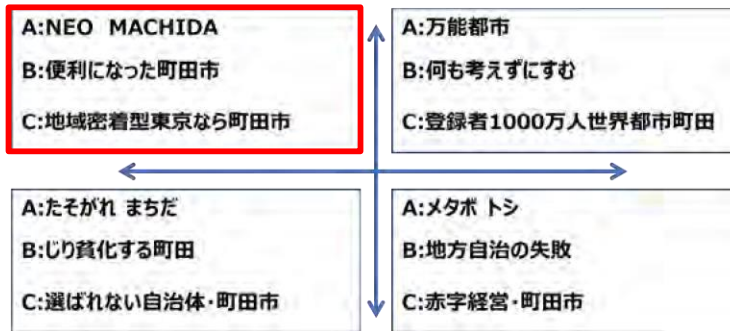
- 地方自治消滅・デジタルプラットフォーム自治
- 税制見直し
- マイナンバーで国民一元管理
- 行政サービスが消える
- 原則オンライン手続き
- 自治体職員のSE化
- 情報管理簡素化、完全なる情報化社会
- どこでも均一な広域行政サービス
- オンライン手続き
- 行政業務の委託

C:登録者1000万人世界都市町田

- ワーケーションの進展
- 格差は広がる
- 労働力解消
- AR美術館
- 高度専門性な医療が受けられる
- ワーケーションの進展



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ②第二象限 1) きっかけ



A: <2045年> (⇒2050年、NEO MACHIDA)

- 企業の支店、支所がなくなる
- 市民協働（コミュニティ機能）のオンライン化
- 現状の町田市のまま、マイナンバーのデジタル化などスマートシティ化の過程でNEO化

B: <2020年以降> (⇒2050年、便利になった町田市)

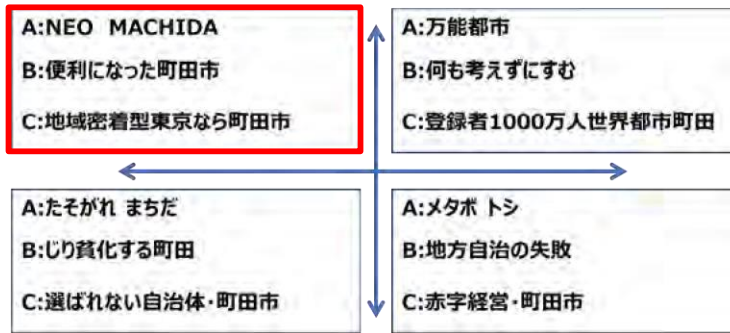
- コロナ継続または次のパンデミック

C: <2030～2040年頃> (⇒2050年、地域密着型東京なら町田市)

- オフィスの確保が不要になる、特定の場所に居住することの価値が下がる



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ②第二象限 2) 2050年の姿



A:NEO MACHIDA

【行政】

- 現状の町田市のままで（自治が）維持できる
- （従来イメージの）コンパクトシティ・スマートシティ ～自律分散型都市
- 自給自足・地産地消化（食料、エネルギー）？

【市民】

- 相原のようなところでも便利に暮らせる
- （一定程度）人口がいる、民間企業もいる
- 行き過ぎた効率化・無駄の排除で商業地の衰退化
- “近さ”をベースに人の温かみがわかる＝人というリアル ～リアルとロボット・デジタルのハイブリット福祉 ～安心感

B:便利になった町田市

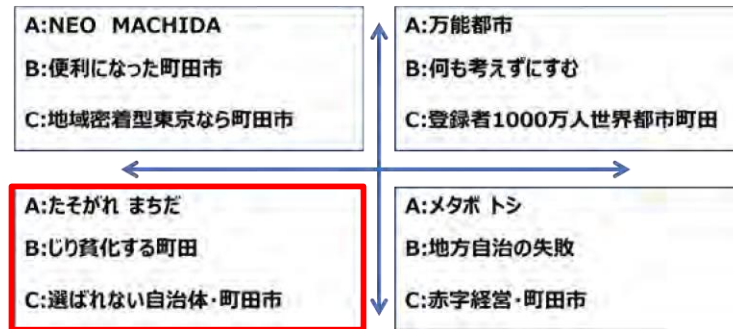
- 行政の完全デジタル化・自動化
- どこでも均一、独自性のある行政サービス拡充
- ノブレスオブリージュ的に“持ち得る者の義務”、“持たざる者の権利”が明確化
- サプライ側デマンド側は一方通行に。
- 段階的な情報化社会
- オンライン議会、投票

C:地域密着型東京なら町田市

- 地方活性化
- 過疎・高齢化の解消



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ③第三象限 1) きっかけ



A: <2035年> (⇒2050年、たそがれ まちだ)

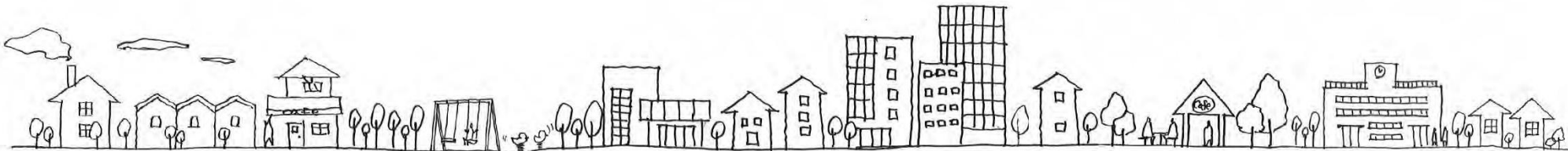
- 神奈中（バス）の撤退（乗客、乗務員の減少）など、公共交通の衰退
- 自然災害（例。境川の大洪水）
- 団地（インフラ）の老朽化と人が住まなくなる ～軒並み崩壊
- 年金、健康保険の破綻で衰退へダメ押し

B: <2040年頃> (⇒2050年、じり貧化する町田)

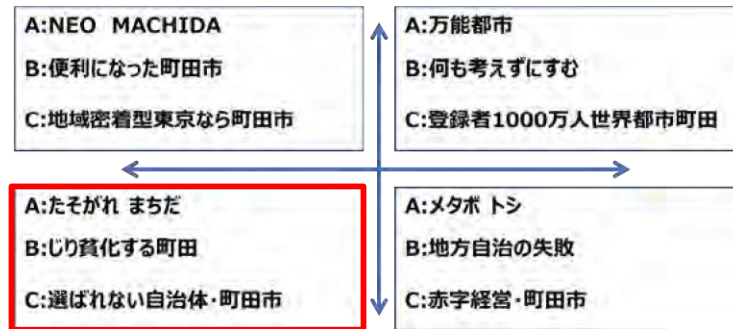
- 生産年齢人口減

C: <2030年頃> (⇒2050年、選ばれない自治体・町田市)

- 若年層の転出、人口減少



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ③第三象限 2) 2050年の姿



A:たそがれ まちだ

【行政】

- 周りがスマートシティ化するトレンドの中で出遅れる＝他の都市が際立つ？
- 団地そのまま
- 町田独自にこだわり失敗する

【市民】

- 人が流出する～負のスパイラル（税収不足～行政サービス低下～人口流出）→消滅都市
- 温かみはあるが、需要に供給者（人）が追い付かない
- 残った人たちの結束力がある

B:じり貧化する町田

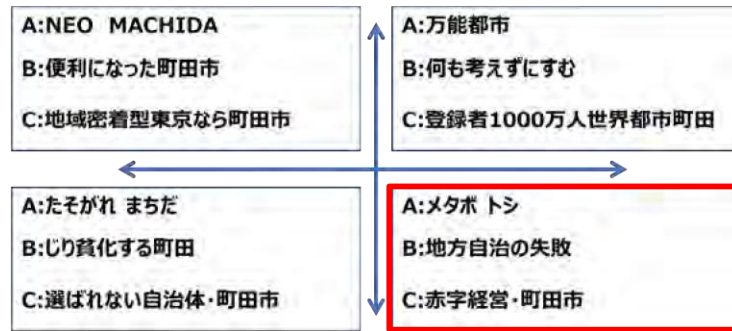
- ブラック労働化、ジリ貧化する行財政
- 人手不足による行政サービス縮小
- 選ばれる自治体たるための顧客争い激化
- 自治体業務の細分化、個人化
- 自治体間競争激化
- 縦社会の存続
- 窓口に行かなければならない
- 市役所ケータイショップ化（予約）

C:選ばれない自治体・町田市

- ローカルな直売所やスーパーは機能する（食べ物の取引はデジタル化されない）
- 消滅自治体



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ④第四象限 1) きっかけ



A: <2040年> (⇒2050年、メタボ トシ)

- 他の自治体との吸収・合併（総務省＝国の自治に対する姿勢の影響） ←道州制を見通して
- 相模原市と合併すれば、産業（工業）や水源、リニア駅を含めて、自治体の力を増強できる

B: <2040年頃> (⇒2050年、地方自治の失敗)

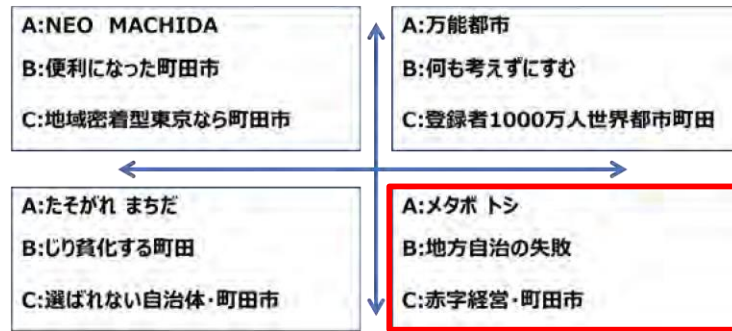
- 人と金がなくなる

C: <2040～2050年頃> (⇒2050年、赤字経営・町田市)

- 税金のふるさと納税化、民間による公共施設管理



5.ワークショップの討議結果のまとめ (4) 未来シナリオ素材 ④第四象限 2) 2050年の姿



A:メタボトシ

【行政】

- 技術が発展していないが、行政の地理的範囲が広がる（業務が広がる）
- 旧来の町田市以外の地域まで面倒見切れない、市内での地域間格差
- 広域になるものの、システムの規格が合わず、スマート化が進まない
- 合併によるデメリットの顕在化 ～財政危機、合併前の地区との整合性がつかない ～内部分裂

【市民】

- 福祉の崩壊
- 都市拠点の多角化で、これまでの中心地（町田駅）の衰退
- とにかく不便（どこにいくにも遠いし、不便） →コンパクトシティへ逃避・流出
- 「たそがれまちだ」よりも始末に悪い ～人間味がない

B:地方自治の失敗

- 町田市役所から国直轄「出張所」へ
- 税金は保険の掛け金のようなものに、サービス享受は配当のようなものに。
- 行政サービスは今までの「平等」とは違った意味合いに、受け方を選択できる。

赤字経営・町田市

- 行政サービスは選べない
- オーダーメイド介護サービス
- 行政サービスの宅配



■ WSの成果および課題

- 町田市職員がシナリオプランニングを実践し、未来を見据えた戦略検討の視点を得る体験ができた。
- 町田市未来都市研究2050の研究内容をレクチャーや宿題を通じて共有することができ、未来シナリオに繋がる仮説の材料および未来シナリオに各所管課の視点を得ることができた。
- シナリオプランニングを理解するためには短い時間だったとの意見が多く、今回をきっかけにさらなる機会を提供することが必要である。

■ WSから未来シナリオへ

- Cグループの軸を基にA,Bグループでの詳細な議論を追加したシナリオを策定する。

